

8月臨時教育委員会会議録

- 1 日程 令和5年8月9日(水)
- 2 場所 藤井寺市役所 3階 会議室305
- 3 案件
日程第1 会議録署名委員の指定について
日程第2 議案第28号 令和6年度使用教科用図書の採択について
・・・資料1(学校教育課)
日程第3 議案第29号 藤井寺市教育委員会教育長辞職の同意について
・・・(教育総務課)
- 4 出席委員
教育長 濱崎 徹
教育委員(教育長職務代理者) 足立 義幸
教育委員 富山 昌克
教育委員 原 明子
- 5 教育部出席者
教育部長兼次長 大山 哲也
教育監(教科用図書選定副委員長) 寺田 剛
教育総務課長 中村 真也
学校教育課参事 田中 守
学校教育課長代理 山川 直人
学校教育課主幹 富藤 賢治
学校教育課主幹 梶谷 武史
学校教育課主幹 中川 真志
- 6 欠席 (教科用図書選定委員長) 萬田 栄治
- 7 書記 教育総務課主幹 田名出 隆行
- 8 傍聴者 13人

午前10時00分 委員会開会を宣して日程に入る。

○中村教育総務課長

みなさま、こんにちは。令和5年8月の臨時教育委員会会議の開会に先立ちまして、事務局より、本日の傍聴者の報告をさせていただきます。

藤井寺市教育委員会傍聴人規則に基づき、傍聴者を募集したところ、13名の希望者がおられましたので、手続きの上、入室していただいております。

なお、傍聴の方々をお願いしたいのですが、本日お配りしております資料につきましては、傍聴者の閲覧用でございますので、会議が終了しましたら、回収させていただきます。お持ち帰りにならないようお願いいたします。

また、藤井寺市傍聴人規則第5条により、会議が始まりましたら撮影、録音は禁

止となっておりますので、ご理解いただけますようお願いいたします。

本日の会議録は、次回の定例教育委員会議（9月26日）の中で承認されてからの公開となります。

なお、本日、教育長及び教育委員の過半数が出席しておりますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項の規定によりまして、本日の会議が成立することを報告いたします。

それでは教育長よろしくようお願いいたします。

○濱崎教育長

みなさん、おはようございます。

只今から、臨時教育委員会を開会いたします。

本日の臨時教育委員会の案件は、「令和6年度使用の小学校教科用図書の採択及び令和6年度使用中学校教科用図書の採択」となっております。

まず、日程第1 会議録署名委員の指定について、本日の会議録の署名は富山委員にお願いいたします。

次に、日程第2 議案第28号 令和6年度使用教科用図書の採択について行います。委員の方には、選定委員会の答申を踏まえながら、学習指導要領の趣旨を踏まえ、本市の実態も考慮した、最適な教科書を採択するために幅広い審議を行いたいと思います。

去る7月21日に藤井寺市立学校教科用図書選定委員会の答申を受けました。答申では、藤井寺市によりふさわしいと考えられる教科用図書の推薦もしていただいております。

本日は、その答申内容も参考にしながら審議し、採択を行いたいと思いますが、よろしいでしょうか。挙手をお願いします。

○委員一同

「全員挙手」

○濱崎教育長

異議なしということですので、まず、国語の教科用図書採択を行います。採択候補図書の特色等について、選定委員会より、簡潔に説明をお願いします。

○寺田選定副委員長

本来なら選定委員長の萬田からご説明させていただくところですが、本日出席ができないため、代わりに副委員長の私からご説明いたします。よろしくお願いいたします。

まず国語の採択候補図書3社についての特色等、説明をさせていただきます。

まず東京書籍でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「目標・内容の取扱い」「補充的な学習・発展的な学習」において特徴が見られます。例えば、単元を通して、「見通す・取り組む・振り返る」という三つのステップで「言葉の力」を身につける構成となっております。また、各学年、「言葉の力」が螺旋的・反復的に取り上げられ、巻末では領域・系統毎に、前学年の内容も含めて確かめることができるようになっています。

このような理由から、選定委員会で推薦されております。

次に教育出版でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「人権の取扱い」において特徴が見られます。例えば、多様性や平和、国際理解につながる様々な教材が掲載されているだけでなく、登場人物の性別について「～君」「～さん」が使われている作品は掲載されておらず、ジェンダーに関する配慮がされています。

最後に光村図書でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「目標・内容の取扱い」「発達段階への考慮」において特徴が見られます。例えば、巻頭に学習の進め方が取り上げられ、学びの見通しを確認することができます。また、一年間の学びがつながるように、目標とふり返りのページが設定されています。「言葉の宝箱」や「図を使って考えよう」では、語彙力の向上につながるものや他教科等や日常生活に活用できる内容など、資料が豊富に取り扱われています。

このような理由から、選定委員会で推薦されております。

以上です。

○濱崎教育長

それでは、委員の皆さま、国語の審議をお願いします。

国語は「言葉の力」を育てる教科です。子どもは言葉の中で成長します。その言葉が新しい言葉との出会いを生み出していきます。言葉の力は、子どもたちが未来を拓く力そのものです。子どもたちの心に響く物語の学習で、豊かに想像する力が育ちます。また、これからの世の中では、情報を適切に読み解き、課題を解決するために活用する力が必要です。そのような「言葉の力」を育てる教科書を選びたいと思います。

目標・内容の取扱いの観点において、表題の豊かさが大きく注目されてくると思っております。

光村図書では、多彩なジャンルやテーマの文章作品が揃っています。例えば、2年「みきのたからもの」、4年「友情の壁新聞」、同じく4年「風船でうちゅうで」、少し難しいお話になりますが6年「考えるとは」など、新しい作品もかなり入っており、豊富な作品から誰もがどこかで自分の好きな作品に出合えるような教科書になっていると思います。何かお考え等ございますか。

○足立委員

目標・内容の取扱いの観点において、全ての出版社の教科書を拝見させていただきまして、その中でも東京書籍と光村図書の2社に興味を沸き注目して拝見させていただきましたが、内容レベルで差を感じることはなく、個人的にはともに使いやすいという印象を持ちました。どちらかということになりますと、使い手の好みによるところが大きいと感じました。個人的な教科書の楽しみとしまして、単元と単元の間をつなぐ副単元では、どの出版社も副単元を用意しているのですが、特に東京書籍P34「本はともだち」というコラム的なものが載っていました。将来にわたり参考となるような情報を掲載している点を個人的には評価したいと思っています。

光村図書は、例えば、冒頭になりますがP2目次の部分で、単元全体に「よむ」「はなす」「きく」という学びのテーマを設けており、教科書全体として読み物にしているような印象を受けました。教育長の方からも紹介がありましたけれども、6年生P204「よむ」というテーマの単元になりますが、取り扱う題材も含めて非

常に多彩であるなど感じ、教材としての面白さを感じました。以上です。

○濱崎教育長

ありがとうございます。

私の方から、教育出版で、表題に「ひろがる言葉」とあり、言葉の力が表す素敵な言葉だなど思っています。子どもがわくわくしながら言葉を学び使うことの楽しさを体験できる、確かな言葉の使い手になってほしいという教科書会社の願いが感じられます。

国語という教科にとどまらないで、「生きてはたらく言葉の力」を身につけられるように工夫していかなければいけないと思います。例えば、教育出版6年「パネルディスカッション・地域の防災」の学習内容で言いますと、立場や意図を明確にした計画的な話し合い方をここで身につけさせて、他教科の時間や総合的な学習等でも考えを深めたいときに同じように活用できるよう工夫されていると感じています。他にご意見等ございますか。

○原委員

同じく目標・内容の取扱いという観点において、東京書籍では目次のそれぞれの教材に（物語）や（説明文）と書かれていて、どういうジャンルのものかわかりやすくなっています。また、学年ごとの教科書に、出てくる登場人物が最初にかかれています。学習の進め方も最初に明記されているので、わかりやすいと感じます。

さらに、ノートづくり方も例としてあげられており、手書きのものなので児童にとって参考にしやすいものになっていると思います。デジタルノートのづくり方も載っていますので、こちらも参考にしやすいと思います。

○濱崎教育長

目標・内容の取扱いという観点でおまとめいただきご発言いただきました。他にございますか。

○富山委員

学び方の工夫の観点において、6年の各出版社の教科書のなかで特に印象に残ったものを挙げてみます。

東京書籍では、「イースター島にはなぜ森林がないのか」という、外来種を導入した結果、自然が破壊され再生不能になってしまったという環境破壊に関する話題でした。現在の文明も1万年に達しようとしているので、科学者はいつ世界全体が絶滅に瀕してしまうかもしれないと、たえず危惧しています。このような否定的な観測は科学者しか持ち得ていないのが世界の実情なので、子どもたちにしっかり環境問題について考えてもらうために、このようなイースター島の話はとても重要だと思いました。

教育出版では、「津田梅子」さんのことが書かれています。米国への留学とその後の日本で未来をきりひらいていく話ですが、日本人の哲学、宗教観、ものづくりなど他国と比較しても劣っているとは思えないほどの優秀性を誇ってきたにも関わらず、バブルの頃と比較して経済が停滞しているのは否めないで、国際社会から取り残されないようにするには、自ら海外へ留学するといった苦難の道を切り開いて

いく勇気をはじめ、海外で学んだグローバルな視点を子どもたちにどう伝えていくかが、言葉を通じての最大のテーマだと思います。

光村図書は、「人間は他の生物と何がちがうのか」です。細胞で生物は全部できていますから、細胞の遺伝情報であるDNAには『繁殖と生存』の2大命令しか刻まれていないにも関わらず、猛獣が来たときに、赤ちゃんを抱いて、海へ浸かって逃げたおかげで、浮力を使い、2足で立てて、その結果、脳が脊髄の上で肥大し、人類は様々な妄想・創造ができるようになったといわれていて、そのなかで言語も獲得したといわれています。筆者の福岡伸一氏の考え方は人類が唯一、言葉を操る生命体のように書かれています。私は哺乳類や鳥類でもクジラやイルカであっても最低限の言葉は存在していると思います。今後は、近未来に起こるAIの暴走と人類との戦いが起こっていくと思うので、そのためにもこの言語はきちんと伝えていきたいと思っています。

三者三様、テーマの方向性は違いますが、とても重要なことが書かれていたので、改めて小学校の国語の教科書を拝読して素晴らしいなと思いました。

○濱崎教育長

ありがとうございました。どの教科書にも刺激される好奇心というか、なんだろうとか、もっと知りたいとか、そんなことが物語や説明文等の読み取る力の土台になっているというお話でした。他にございますか。

○原委員

発達段階の考慮という観点において、東京書籍については、読み物（題材）と、そのあとの取組み、振り返りなどがわかりやすくまとめられていると感じました。案内役の緑のしずくのキャラクター（コトハ）が目印になり、わかりやすいです。

また、読み物教材のフォント、行の間が大きめで統一されていて見やすく、音読もしやすいと思いました。読み物教材以外の振り返りやコラム的なものは少し字が小さかったりフォントが違ったりしていて、その違いがはっきりしていてわかりやすい印象を受けました。

さらに、近年東京五輪で活躍していた卓球の水谷選手や伊藤選手、スケートボードの西矢椛選手といったような身近なスポーツ選手を取り上げています。子どもたちの世代でも知っている選手で、特に西矢選手については児童たちと年齢も近くて親近感があり、内容も子どもたちに伝わりやすいものになっていると思いました。

○濱崎教育長

ありがとうございます。キャラクターが出てきたということで、国語だけでなく、これからずっと採択していく教科書の中でいっぱいキャラクターが出てきて、その使い方や効果もまた一つの視点になってくると思います。他にございますか。

○足立委員

補充的な学習・発展的な学習の観点において、東京書籍では各単元の導入部分に、例えば6年P16で、作者の気持ちや文章の関連動画、朗読コンテンツなどQRコードを活用しています。予備知識を取り入れることで、文章への抵抗感を和らげることや興味を高めることに繋げるのではないかなと期待感を抱かせますし、デジタ

ル教材を国語科に積極的に取り入れながら国語への関心を高めようとする意識が垣間見られる点を個人的には評価したいなと思っています。

また、光村図書では、単元に関連する本をはじめ、適宜本の紹介を盛り込んでいます。読書が好きな児童や、発展的な考え方を持つ児童にはすごく魅力的なコンテンツかなと感じました。余談で恐縮ですが、光村図書さんのHP上で、教科書クロニクルというサイトが7月に公開されていまして、昭和30年度までの教科書を収録しています。光村図書を使っていた方限定ということにはなりますが、思い出に浸れるようなそんなコンテンツではあるのですが、通じて誇りをもって制作してきた証のような気がしまして、企業姿勢も個人的には評価したいなと思っています。

○濱崎教育長

ありがとうございます。QRコードが出てきましたね。4年前の教科書と大きく変わっているところで、QRコードの扱い・数量も圧倒的に増えてきたということで、これも採択の大きな視点になってくると思います。他にございますか。

○富山委員

補充的な学習・発展的な学習の観点についてお話します。私は2001年にNHK『ひとりのできるもん!』という幼児番組を監修したことがあります。小学低学年の出演者が家事などをひとりのできるようになるための番組です。「料理などと同様に、植物に関して教えられないか?」という相談を受け、当時、図書館や大手の書店などを回り、植物関連、園芸関連、ガーデニング関連の絵本を徹底的に収集して、何を幼児に教えているのかをまず把握し、専門の園芸農業の立場から見てまとめました。膨大な絵本があるにも関わらず、植物関連の絵本は極端に少ないものなんだなと落胆した思い出があります。それで、1年生上の各出版社の教科書を比較しました。

東京書籍では16冊の推薦図書が掲載されておりますが、「そらいろのたね」、「れんげのおきやくさま」の2冊が農業・園芸に関するキーワードがタイトルになっております。

教育出版では断トツの42冊の推薦図書が掲載されておりました。「やさいはいきている」、「ぼく、だんごむし」、「キャベツくん」、「バナナ」、「はちうえは ぼくにまかせて」の5冊が植物系絵本でした。特に「はちうえは ぼくに まかせて」という絵本は園芸家になっていくサクセスストーリーで、人類が食糧以外の園芸植物を育てていったのかという花とみどりを愛でる心が養っていける絵本だと思います。

光村図書では27冊の推薦図書が掲載されており、植物関連の絵本は「キャベツくん」の1冊のみでした。

このように農業・食糧問題などは人間生活を営む上で、最も大切なことにも関わらず、日本では依然自給率38%程度で、まだまだ農業・園芸に関する幼児教育が改善されていないのかなと少し感じました。児童によっては、国語の教科書を貰ったその日に全て読み終えてしまい、物足りなさを感じてしまうこともあると思うので、今後、QRコードや推薦図書などの補充的な学習アイテムは必要だなと感じました。

○濱崎教育長

保幼小との接続がスムーズにどう行われるかというのも今回大きなテーマになってくると思います。今のお話で感じるのは、本当に子どもが幼児期に親しんできた絵本のような世界観で国語の勉強が開いていくところが大切だと思いました。他にございますか。

○原委員

取り上げている題材について同じような感じですが、東京書籍の6年P154、155あたりで環境問題というのを自分たちの暮らしの身近な問題を取り上げ、その仕組みや対策、問題点を考えさせる題材もあり、SDGsの視点に立った取り組みであると考えます。やはりこういった国語の教科書から環境問題も学んでいくというのはすごく大切な事なんじゃないかなと思いました。

同じく東京書籍の本棚のページで、巻末ではなく教科書の途中の真ん中あたり、6年生ではP102、103に載っていますが、巻末にもってくるものに比べて児童の目にもとまりやすく、興味がわきやすい工夫がなされていると感じます。

○濱崎教育長

ありがとうございます。SDGsが出てきました。これもずっとこれから教科書に出てくる視点だと思います。本棚の読書推薦文は、原委員のおっしゃるとおり楽しそうに興味を沸きました。

私の方から、組織・配列の観点で述べさせていただきます。

東京書籍では、冒頭で述べましたように国語の中で今一番注目を集めている能力「言葉の力」というのがやはり情報を適切に読み解き、課題を解決するために活用する能力についても力点を置いているように思えます。

興味があった事例で言いますと、3年「カミツキガメは悪者か」という大変興味深い題名ですが、説明文で目的として筆者の考え方をその中でどう捉えるかというのが観点になっていました。続きまして新しく設けられた「じょうほうのとびら」という中の（考えと理由）で、考えは理由と一緒に伝えるんだという知識の定着を図っておいて、その後「クラスの思い出作りのために」というテーマで、考えの理由を明らかにしながら自分で文章を書いてみるという一定の流れの配列になっている題材でした。本当に単元間の有機的な繋がりで、情報活用能力を高めることが工夫になっているなど見させていただきました。他に意見はないでしょうか。他に意見がないようでしたら、採決を取ります。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

東京書籍3人、教育出版0人、光村図書1人

○濱崎教育長

東京書籍に3名、光村図書に1名挙手されていますので、採決の結果、国語は、東京書籍を採択いたします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○濱崎教育長

それでは、東京書籍を採択いたします。

続いて、書写の教科用図書採択を行います。採択候補図書の特色等について、選定副委員長、簡潔に説明をお願いします。

○寺田選定副委員長

書写の採択候補図書3社についての特色等、説明をさせていただきます。

まず東京書籍でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「人権の取扱い」「組織・配列」において特徴が見られます。例えば、右手の場合と同じ大きさの写真を用いて左手での鉛筆の持ち方が示されており、左手の持ち方の時、鉛筆の先が見えるように持つことを示しています。また、教材文字の書き込み欄を上下に配置したりして、利き手に関わらず教材文字が見えやすい配慮がされています。

このような理由から、選定委員会で推薦されております。

次に教育出版でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「学び方の工夫」において特徴が見られます。例えば、「筆圧」については、3・4年では、擬音（ちゅん・とっ・とん）という擬音を用い、5・6年では、3段階の数字でわかりやすく示されています。また、「穂先の動き」については、視覚的に理解しやすいように朱墨と薄墨で示されています。

次に光村図書でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「学び方の工夫」において特徴が見られます。例えば、「筆圧」については、3・4年で1から3まで筆圧のレベルを数字で示す工夫がされています。「穂先の動き」については、マークを用い、濃淡のある朱墨で示され視覚的にわかりやすい工夫がされています。また、さまざまな点画の書き方を「ねこ」のイラスト（猫の動作）で示しており、視覚的な支援となっています。

このような理由から、選定委員会で推薦されております。

以上です。

○濱崎教育長

それでは、委員の皆さま、審議をお願いします。

書写は、子どもたちにとって日本の書く文化の学習でもあります。もう少し大きくとらえれば、書いて伝え合う活動はコミュニケーションを豊かにします。子どもたちが、自分の字が好きになり、文字を手書きすることの楽しさを感じながら、国語では「言葉の力」と言いましたが、ここでは「書く力」をぐんと伸ばす教科書を選びたいと思います。どなたかご意見いただけますか。

○原委員

学び方の工夫という観点でみると、まず筆順と字形についてですが、光村図書の4年と東京書籍の同じく4年を比較してみました。光村図書の方が大きい見本、そして筆順は色を変えて見やすくしています。どちらも清書の見本が1ページ分とあってとてもお手本にしやすいですが、光村図書は一画ずつ筆順が載っていて大変わかりやすいと思いました。

また、光村図書の4年「字の組み立て方」で、「へん」や「かんむり」などが元の漢字と比べてどう変化しているかが、大きめに重ねて書かれているので字の変化と

というのがとてもわかりやすいと思いました。はらいの違いも細かい違いがわかりやすくなっていました。毛筆のコツもつかみやすいと感じました。

さらに、光村図書の3年生の「横画」「折れ」を書くところですが、筆の入り方、止め方、折れ方など、基本となるところが「猫」や「ななめほさきちゃん」のイラストも用いてかかれており、実際の筆の動き方も写真でスローモーション的に書かれているので大変わかりやすいと思いました。

○濱崎教育長

体感的に技能を学ぶということで、なかなか本を見ているだけでも体感的には出来ないのですが、原委員のお話ですと、本の中で見ているだけでも筆の動きがスローモーション的に書かれているということで、素敵な表現だと思いました。他にございますか。

○足立委員

原委員の発言と重なる部分があるのですが、学び方の工夫という観点について、東京書籍では、「トメ」などの筆の穂先の動きについて、例えば4年P8～9にあるように、穂先のマークを使ってわかりやすく説明しています。

光村図書でも、例えば同じ4年P6～7で、筆先のマークの大小、筆圧の強弱を表現されていて、さらには「ななめほさきちゃん」というユニークなマークを使っていたり、あとは1年P12～13で、「トメ」「ハライ」「ハネ」などの筆の動きを「猫」のイラストを使って、さらには「スーときてピタ」というような擬音語とか擬態語を使ってユニークに表現されていて、分かりやすさに努められているのが伝わってきました。書道とか書写に関しては、筆の動きを体感で養っていく部分が大きいと思いますので、知識だけではなくて実際に書くことが重要になってくるということ子どもたちには覚えてほしいと思いますし、子どもたちにちゃんと伝えていかないといけないと思いました。

○濱崎教育長

原委員と同じように、体感的な部分ということで見やすい教科書は大事な視点だと思います。他にございますか。

○富山委員

学び方の工夫という観点でみると、「書写ブック」が付属している光村図書は素晴らしいと思いました。先ほど足立委員もおっしゃっていましたが、光村図書の「ねこ」のイラストがすごく秀逸で、とてもわかりやすいです。ここまで表現が伝わるんだというのは改めて日本のマンガ文化についてすごく発展していると驚きました。

東京書籍も本当にわかりやすく伝える書き方で、デザイナー的な紙面の使い方を解説しているところが秀逸と思いました。デジタルコンテンツも非常に立派です。

教育出版は、文字の大きさ・配列と点画のつながりが詳しく書かれていたので立派だなと思いました。

因みに、私は著者の人数をいつも確認します。たくさんの先生方が関わっていたらそれだけいいものが残っているのだろうと思っています。この書写の場合は、東京書籍は30名、教育出版は32名、光村図書は22名となっていて大差はありませんでした。

何よりも、教育長がおっしゃっていたみたいなの文字文化というのは、ここが基本になっていて最終的には新しいフォントを作り出していただけたら、日本語自体が世界に出していけるといふところなので、私は友人に水墨画家がいて、彼は水墨画でご飯を食べていくと決めた途端、一切ボールペンも鉛筆も持たなくなって、ずっと筆だけで生きています。一切ボールペンや万年筆を使わないというところが格好いいなど、日本人としての基本がここにあるんだと思っているところですが、3社とも子どもたちに何かを伝えようと努力されているところが見えたので、テキスト的にはいいと思いました。

○濱崎教育長

ありがとうございました。特に猫のイラストの表現が面白いと思います。

発達段階への考慮という観点でみると、書写を広めたいという光村図書は新しいコーナーが設けられています。国語や他教科や日常生活とつながる教材がたくさん集録されていると思います。例えば、1年「よこがきのかきかた」は、すぐ生活科の観察記録につながっていきますし、4年「ノートの達人になろう」は、ノートを読みやすく書くためのポイント等をしっかりと学べるようになっています。

また、富山委員のご意見にありましたが、1年から6年まで学んだことを日常生活に広げる6年の「書写ブック」、学びが日常的に広がって文化とは遠のきますが、汎用的に書く力、幅広く有用に書く力を育てる工夫があるのかなと思います。

教育出版の「えんぴつのもちかた」は、教育委員の方からも擬音等いろんなことが発表されていましたが、合言葉に沿って子どもが自ら指を動かし、確かめながらよい持ち方を見つける学習活動をさせています。例えば、皆さんのお手元の鉛筆を持っていただいて、はじめに「①ぱちぱち」という握る感触を確かめる、次に「②ころころ」と脱力して上手に回す行動を行うことで余分な力を入れずに親指と人差し指でつまめるようになりますね。内容を見ていると、作業療法士の視点でこれを考案されて提案されているということで、学習の基礎となる鉛筆の持ち方の定着化・習慣化というところでは教材が工夫されていると思います。他にございますか。

○原委員

補充的な学習・発展的な学習についてですが、これは光村図書の全学年の最後のページを見て感じたのですが、教科書を作った人からのメッセージがあり、その学年で習得したことを振り返ることができるようになっています。先生や保護者へのメッセージもあり、どのような学習をするのが大変見やすくなっています。筆の洗い方や、文字に興味をもたせる写真などもあってよいと思いました。

また、光村図書のSDGsブックや書写ブックは、文字をきれいに書く、文字で様子を伝えるといった参考や使い方がわかり、想像がふくらんでよいと思います。見本やイラストなど、写真も多く、わかりやすくなっており、子どもたちがアウトプットするときの材料になると思います。

○濱崎教育長

メッセージを私も読みましたが、6年生の自分の文字を好きになろうというメッセージがいいなと思いました。他にございますか。

○足立委員

補充的な学習・発展的な学習についてですが、光村図書の4年P21～24に「SDGsブック」というタイトルで、書写におけるSDGsの要素を教材に取り込んでいます。3～6年生の裏表紙内にも「SDGs×書写」の説明書きがあり、書写に新しい視点で取り組んでいますし、SDGsへの啓発を行っているということは評価したいなと思いました。あと、補充的な学習・発展的な学習とは違うかもしれませんが、書写学習が始まる1年生と毛筆学習が始まる3年生の巻頭にスタートブックというものを用意されていて丁寧な印象を持ちました。

○濱崎教育長

字を書くという時に、読む人に伝わる文字になるのかというのは結構大事なポイントで、逆に言えば汚い文字になるのですが、そういった意味で、東京書籍「書写のかぎ」というところに、そのポイントみたいなものが書かれてあって、課題解決型の学習の中で子どもたちが主体的に課題を見つけ、確認し、生かしていくという丁寧な字を書くときのキーになるような内容が示されています。練習すること・学びを重ねることによって、より子どもたちの字は代わっていきますので、そこで読む人の事を本当に考えて丁寧に字を書くみたいな、技能だけでなく心も育ってくるということで自分の書く力を磨くという意味で、こういった「書写のかぎ」というのは工夫されているなと思います。他にございますか。

○富山委員

組織・配列の観点でみますと、私自身、農大や専門学校で授業をさせていただいて、何万人も文字を見てきましたが、個性があって当然いいと思いますし、同じ角度の個性で書いてねといつも学生さんをお願いするんです。どんな面白い文字でも構いませんよと。ただこういう角度の「あ」を書いたらずっとこういう角度の「あ」を書いてくださいと。ずれたら読みにくいです。そのあなたの角度があなたのフォントだから、全世界の人に受けたら新しい表現になるんですよと。私はこの書写で本当の基本を学んでいただいて、そこからどう自分の個性の文字に持っていくか、それがずっと行けば水墨画まで行くかもしれないと思うんです。当然看板もいろいろ描けるようなビジネスも発展していくと思うんですが。何よりも東京書籍は、いろんなキャラクターを使って、「とめ」でカンガルーや犬やペンギン。光村図書は猫のキャラクターで統一されていましたね。この辺が子どもさんにとってどういう視覚的な効果になっているのかという、アニメーションを使って。これは多分幼稚園児や幼児にどの子がかawaiiと聞くと簡単に指をさすと思うんですね。そういうキャラクターをまず決めて採用していくというのも一つの方法かもしれませんが。知恵がついてきたら色んな角度を見てこのキャラクターがいいとか言い出すと思うんですが、まだ2～4歳の幼児がどの子がかawaiiか聞いてコレといったものがもしかしたら小学校低学年にも受け入れやすい表現になるのかなと思います。「とめ」と「はらい」と「はね」を解説するのに、光村図書は猫のキャラクターのイラストでわかりやすく表現されています。東京書籍は、犬、ペンギン、カンガルーなどのキャラクターを使用してわかりやすく表現されています。教育出版は、『ぴたっ』『ぐう』『すうう』など、うまく擬音を使っておられるので面白いなと思いま

す。素晴らしい試みだと思います。

○濱崎教育長

ありがとうございます。他にございますか。

○原委員

個人的な意見になるのですが、光村図書の表紙が和的なイラストで素敵かわい
いと思いました。よく見ると猫のイラストが1～6年生と高学年になるにつれて、
だんだんと成長している様子もとても面白くてよいと思いました。

○濱崎教育長

ありがとうございます。他に意見はないでしょうか。ないようでしたら、採決を
取ります。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

東京書籍0人、教育出版0人、光村図書4人

○濱崎教育長

光村図書が4名挙手されていますので、採決の結果、書写は、光村図書を採択い
たします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○濱崎教育長

それでは、光村図書を採択いたします。

続いて、社会科の教科用図書採択を行います。採択候補図書の特色等について、
選定副委員長、簡潔に説明をお願いします。

○寺田選定副委員長

社会の採択候補図書3社についての特色等、説明させていただきます。

まず、東京書籍でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「目標・
内容の取扱い」「発達段階への考慮」に特徴があります。例えば、児童の発達段階に
応じて適切な文の量、わかりやすい表現で記述されており、写真の資料やイラスト
の選び方など児童がイメージしやすいように配慮されています。

このような理由から、選定委員会で推薦されております。

次に教育出版でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「学び方
の工夫」に特徴があります。例えば、各学年の巻頭に「社会的な見方・考え方」の
視点や方法を例示したコーナーを特設し、社会科の学習ならではの視点や意識づけ
を図る工夫がなされています。

最後に日本文教出版でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「発
達段階への考慮」「学び方の工夫」に特徴があります。例えば、「なぜ?」「どうして?」
と問いかけるような学習問題を設定し、学習計画を立て、見る・調べる、まとめる
活動を通して、問題解決的な学習に取り組むことができるように工夫されている。

このような理由から、選定委員会で推薦されております。
以上です。

○濱崎教育長

それでは、委員の皆さま、審議をお願いします。

社会科は、学習指導要領の前文に書いてある大きな目標の「人々が幸せに生きる持続可能な社会」の創り手として子どもが育つことを願う教科だと思います。だからこそ、社会の中にある「なぜだろう」という子どもの素朴な思いに寄り添い、調べたり、考えたりする力が身につく、問題解決学習を通して社会認識を深め、正に「社会とつながる」という言葉がキーワードかなと思いますが、そんな子どもを育てることのできる教科書を選びたいと思います。何かご意見ございますか。

○足立委員

目標・内容の取扱いという観点についてです。どの出版社も各学年の教科書の冒頭に学習の進め方などのページを設けていますが、日本文教出版の冒頭「社会がはじまります!」「社会科の学習の進め方」「この教科書の使い方」は、「何を学んでいくのか」「どのように学んでいくのか」「教科書をどのように活用できるか」がわかりやすくまとめられており、子どもたちが見通しをもって学習に取り組みやすくなっているような印象を受けました。

東京書籍は冒頭で、前の学年で学んだことと、その学年で学ぶことを見開きで掲載されていて、前の学年のふりかえりとともに、新しいことを学ぶ意欲につながると思いました。

日本文教出版は、他の出版社と比べて、西日本や近畿地方、大阪を取り上げている部分が多くあるように感じました。例えば、6年生P62「歴史の導入部分」では、堺市の百舌鳥古墳群などを見渡した写真や堺市博物館の探検を取り上げています。堺市は藤井寺の近隣でもありますし、藤井寺とかかわりの深い古墳が掲載されていますので、子どもたちにとってはすごく興味を持てることだと思いますし、同時に、こんなにすごい街なんだという誇りを持たせることにつながると思いました。

○濱崎教育長

ありがとうございました。他にございますか。

○富山委員

私も全く足立委員と同じ意見で、社会を学んでいくうえで、まず身近な自分がいるところから社会が構成されているということを子どもたちに伝えるために、この日本文教は、5年の「大和川とわたしたちの暮らし」、何よりも世界文化遺産に登録するのに、この古墳群を建物の条例等をつくって古墳の景観をおかしくしないように藤井寺市もすごく努力してきて、ようやく世界文化遺産まで評価されたというところで、そういう過程も子どもたちにきちんと伝えてあげたいですし、何よりもピラミッドと変わらないくらいの深い歴史のあるところで皆さんが育って大きくなっているという誇りを持たせるための文面というのは素晴らしいなと感じました。日本文教出版は、近隣地域の事例を多く取り上げていると感じました。例えば、藤井寺の子ども達にとってとても身近な大和川のことをあつかった5年「大和川とわた

「私たちの暮らし」の資料掲載は、社会を学んでいくうえで、身近な自分がいるところから社会が構成されているということを子どもたちに伝えられて素晴らしいと感じました。

○濱崎教育長

近隣のことが取り上げられた親しみやすいものという、お二人のお話しでした。

私の方からも目標・内容の取扱いということで、冒頭にも申しましたが、問題解決的な学習というのは大きな流れになると思いますが、社会科特有の問題解決学習が焦点になると思います。

日本文教出版は、冒頭にある「社会科の学習の進め方」で内容のまとめりごとに、問題解決的な学習の流れが一目でわかるように工夫されています。本文でも紙面下段にインデックスを貼って学習の進め方を紹介しています。①問題の発見②問題追及③問題の掘り下げなど、いろいろな追及方法があることを、道を分岐させて示されているところが社会科らしいなと読み取りました。他にございますか。

○原委員

同じく目標・内容の取扱いという観点についてです。東京書籍については、5・6年生がそれぞれ2分冊になっています。2冊に分けられていると、内容が豊富にあるのかなと思いましたが総ページ数も東京書籍が一番少なく、小学生にとっては教育出版や日本文教出版のように1冊で完結している方が見返しやすいのではないかと思います。

どの発行者においても各学年の教科書の冒頭に学習の進め方などのページを設けていますが、私は日本文教がその学年の学習内容を写真とともに一覧で示しているのが、まず視覚でどういった内容を学んでいくのかを捉えることができてわかりやすいなと思いました。また学習の進め方についても、問題を発見、追及・解決、掘り下げる、という流れを道筋で表しているのがとてもわかりやすいと思いました。

5, 6年の高学年においては、調べること（学習の計画）やノート取り方の例を載せているのが学習を進めていくうえで参考になるなと思いました。

○濱崎教育長

ありがとうございました。他にございますか。

○富山委員

学び方の工夫という観点についてですが、社会科の学習で働かせる見方・考え方について、東京書籍では、ドラえものの4種類のマークで「空間」「時間」「相互関係」の3つの視点と、考える「方法」を表していて本当に秀逸だと思います。

日本文教も、同じような見方・考え方について「見方・考え方コーナー」を設定されておられます。特に、5年生「スマート農業・ドローン」では、ずいぶん農業のイメージが変わっていったところもすごく詳しく書いていただいています。食料自給率を挙げていくためにも、こういうことは哲学とともに社会の教科書に載せていただけるということはありがたいことだなと感謝しております。

○濱崎教育長

今、キャラクターのお話がありました。いろんな使われ方がしていて、どんな場面でどういうふうに使ったらいいのかということで、様々な教科書会社の工夫にもなってくるのかなと思っています。

先程も出ました使い方という意味で、日本文教出版では、学習する子どもの思考がより深まるように上手にキャラクターが使われているなと思います。そういう意味でキャラクターがアドバイスをしたり、話し合いの様子を示したりしています。

例えば、5年の教科書では、消費者と生産者との立場から多角的に考えるよう促す場面があったり、「やってみよう」というコーナーでは、こんな思考ツールを使って考え方を整理して広げたらいいよという提案をキャラクターの吹き出しでよく工夫されていると感じました。

教育出版は、一番大事な社会科で使う見方・考え方にキャラクターのふきだしをしっかりと使っていて、特に丁寧に説明されていると思います。また、対話的な活動についての多様な方法をたくさん紹介しており、例えば、5年生のICTを活用した表現活動など「まとめる」「つなげる」ページを中心に多様に紹介しており、ダイヤモンドランキングなどの思考ツールで学習する方法もキャラクターが紹介している工夫がみられました。他にございますか。

○原委員

同じく学び方の工夫という観点についてですが、各発行者とも6年生の歴史の各単元のはじめの見開きページの端に「何世紀、何時代」が記された帯があるのは、どの時代を学習するのかがわかりやすく工夫されていると思いました。東京書籍と教育出版は右側、日本文教出版が左側にあるのですが、個人的には右側の方が見やすいなと思いました。

日本文教出版は全学年で全単元末に見開きページで「未来につなげる～わたしたちのSDGs」を設け、さらに要所に「考えよう！SDGs」のコーナーを掲載するなど、学習と今日的課題のSDGsを関連付けているところがよいと思いました。また、各学年の巻末にはSDGsの目標シールがついていて、そのページと関係あるシールを貼ることにより、さらにその関連を意識づけることができる工夫があります。子どもたちはシールを貼ったりすると楽しかったり記憶に残ったりするのでいい工夫かなと思いました。6年の歴史の勉強の中にもSDGsと関連つけられたページがあるのが良いと思いました。

各単元において、掘り下げて考える部分、勉強していくうえでキーポイントになる「なぜ？」「どうして？」と問いかけるような学習問題をキャラクターの「？」の表示で各ページの左部分にレイアウトしているのが、問題解決的な学習に取り組むことができるように工夫されていると思いました。

○濱崎教育長

SDGsを出していただきました。正に、未来にどんな社会を創るのかという、子どもたちにとって必然的な課題になるので、大きな視点になるのかなと思います。他にございますか。

○足立委員

組織・配列についてです。東京書籍も日本文教出版も、見開きでページを開いた

とき、本文を資料や写真が囲むレイアウトになっています。本文と資料をはっきり区別できるようなレイアウトになっていて見やすい印象がありました。

原委員の発言にもありましたが、東京書籍については、5年生、6年生の教科書が2分冊タイプになっています。必要な分だけ持っていくには軽くなるため持ち運びはしやすいですが、授業の中でその学年のこれまでの学習を振り返ったり関連付けたり分野を横断して使ったりするということもあるのではないのかなと想像しますと、もし持参していなかった場合には、そういった機会を失うことになってしまうような気がします。2分冊タイプはメリットもありますが、デメリットも併せ持つってしまうような構成の仕方なのかなと思いました。

○濱崎教育長

見やすさと分冊の是非についてご意見をいただきました。

補充的な学習・発展的な学習の観点から、日本文教出版を私は気に入っているのですが、歴史が好き又は苦手になっている子どもたちに、歴史学者の磯田道史先生から歴史の面白さを語りかける手紙を掲載されており、資料も充実していると思います。

また教育出版では、6年の折り込み資料で歴史の出来事を日本列島の広がりの中で見るができるようすごく工夫されているなと感じました。

東京書籍では、今日的な教育課題に関わる個所を中心に、学習したことを生かして社会的な事柄に参画したり、提案・発信したりする学習場面、正に「いかす」ということで設定しているのですが、6年「いかす」では政治国際編で様々な課題に優先順位をつけて、先程も出てきましたようなダイヤモンドランキングみたいな手法で考えて一番大切な言葉ですが当事者意識をもって提案・発信する体験という設定をされています。それから、発達段階の考慮の観点から、面白いなと思う資料ですが教育出版3年P96、95「地域の安全を守る学習」を開けていただけますか。この見開きのイラストがすごく立体的で詳しいです。3年生をぐっと引き付けるように思います。漫画チックに書いていますが、すごくリアルに書いているなというのと、P100、101の特に消防車の絵はすごくリアルで、模型のようすごく楽しそうで、3年生だとすごく喜ぶなと思います。また6年生の、詳細に書き込まれているというところで、P80、81はジオラマのようにすごく細かくて、どんな生活をしていくのか探していくんですが、狩りをした頃の様子創造図で米作りの方と狩りをしているというところでは、P174の長州藩の下関砲台は、以前の写真は白黒なんですが、それをカラーで復元化したということで、すごくリアルに写真を使って上手に使っているなというところで工夫がなされているなと思いました。他に何かございますか。

○富山委員

教育出版5年生「お米に関するところ」は内容が本当によくできています。僕たちの主食に関する事なので、やはりきちんとどこにどういう問題点があるのかというところを子どもたちに伝えるというのはすごく大切なことと思います。昨年、名古屋大学で、お米自体が砂糖水になるという、お米が出来るのですが中身は砂糖水になっている新しい品種がバイオテクノロジーで開発されまして、もしお米が売れないなら砂糖を作っていけるという可能性も出てきたので、当然砂糖水ができる

ということはバイオエタノールになって車を動かすことができるので、その辺の発展性とかももし触れていただけていたら、お米作りに対してイメージが変わっていくのではと思いました。

○足立委員

先ほどの教育長のお話でもイラストの紹介がありましたけど、このあたりのイラストはいわゆるアイソメ図とか鳥瞰図とかという非常に立体的に分かりやすい絵になっているんですけど、ここ2、3年すごく流行っているイラストの表現の仕方になっているので、最近のこの流れというか積極的に取り込んでいる点ではすごく好感を持てるどころかなと思います。

○濱崎教育長

他に意見はないでしょうか。では、採決をとります。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

東京書籍0人、教育出版0人、日本文教出版4人

○濱崎教育長

日本文教出版が4名挙手されていますので、採決の結果、社会は、日本文教出版を採択いたします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○濱崎教育長

それでは、日本文教出版を採択いたします。

続いて、地図の教科用図書採択を行います。採択候補図書の特色等について、選定副委員長、簡潔に説明をお願いします。

○寺田選定副委員長

地図の採択候補図書2社についての特色等、説明をさせていただきます。

まず、東京書籍でございますが、各項目において、バランスよく配慮がなされており、特に「学び方の工夫」において特徴が見られます。例えば、日本の世界文化遺産がわかりやすく見つけやすい表記になっていたり、世界地図では地図の周りに色々な写真や情報を多く掲載したりしており、世界の料理の写真など国際理解という観点で興味を持たせるよう工夫されています。

次に帝国書院でございますが、各項目において、バランスよく配慮がなされており、特に「学び方の工夫」「補充的な学習・発展的な学習」において特徴が見られます。例えば、随所にイラストや写真がバランスよく掲載され、児童が学習目標を達成することができるように十分配慮されています。また、藤井寺をはじめ、児童に身近な地名や施設、資料が多く掲載されています。

このような理由から、選定委員会で推薦されております。

以上です。

○濱崎教育長

それでは、委員の皆さま、審議をお願いします。

地図は勉強することは別にしてワクワクしますね。学校で習う教科書というよりも、お家でもしっかりいろんなことを見てすごく夢を膨らませるといえるか、特に辞書とかではなく、すごく視覚的・空間的なものが頭の中に広がってくるというところが、難しく言えばグラフィカシーという育成にも大きく役立ちます。単純に見ているのではなく、たくさんその中で考えているということで、考える力も育つのかなと思います。

子どもたちの知的好奇心や想像力が見知らぬ土地に思いを巡らせ夢を育む教材だなと思っています。そういった意味で、冒頭に申しましたように子どもが開きたくなる地図帳を選びたいなと思います。何かご意見ございますか。

○足立委員

はじめに、教科書の内容とは少し違いますが、4年間使い続ける地図帳という点から、教科書を持った時の帝国書院の表紙の紙の質感が、何か模様のなものが入っていますが、洋服の生地とかでもよくあるリップストップというような、破れにくい裂けにくい生地があるんですけれども、それに非常に似た表紙を付けてあって触った感じがべた付かない印象もありますし、手触りの的にも個人的には好きな感じで良い印象を持っています。

次に、発達段階の考慮という観点については、帝国書院では3年生でも読み取りやすい要素を厳選した「広く見わたす地図」があります。ちょうどP21～32にかけての地図になるんですが、日本全体の様子がすごく把握しやすいと思いました。別で、くわしく見る地図というものもありますので、場面によっていろんな使い分というものが期待できるかなと思いました。

総ページ数というところで言うと、帝国書院が132ページ、東京書籍が102ページと30ページほど差ができていますが、必ずしもページ数の多い少ないというものが評価になるということはないと思いますが、今回に関して言えば、結果的に「広く見わたす地図」というものを取り込んでいるようなページ数の差というのが、見やすさや使いやすさの差になっているのかなと感じました。

○濱崎教育長

ありがとうございました。

私も足立委員に引き続いて発達段階の考慮ということで少しお話をします。

地図というのは3年生に進級して初めて使うということで、帝国書院は、その辺を見ながら3年生にすごく丁寧な構成をされているのかなと思いました。3年生の発達段階に応じて結構親しみやすいイラストや会話形式をとり入れ、学習のポイントみたいなものが分かりやすく示されているように思います。3年生ターゲットでかなり詳しく作られたなということで、例えば学校の写真が地図になるまでというところで、横から見る写真があって、斜め上から見る写真があって、真上から見る写真があって、最終的に海から見た写真で地図になっていくというような、視点の変化・見方の違いを3段階に分けて丁寧に示して、地図の成り立ちが3年生なりに理解できる工夫をされているということや、地図記号の書き方で、由来みたいなものもイラスト解説で本当に分かりやすくしています。

「広く見わたす地図」の中では、名産品がたくさん書いてあったり、観光地をきちんと書いてあったり、イラストがとても豊富で新幹線も線路の上を走らせていたりします。

見やすさの問題では、本当の地図とは違うかも知れませんが、海岸線や河川を見やすく太い水色で書いているなど、大変楽しく見やすい工夫がされているなと思いました。他にございますか。

○原委員

目標・内容の取扱いという観点についてです。基本となる地図については、どちらの発行者も各地の特産物のマークや、地名なども詳しく書かれていて、適切な内容になっていると思います。

帝国書院は、各地方をクローズアップした詳しく見る地図について瀬戸内海周辺や、北海道の地方も取り扱いがあるなどとても充実しています。近畿地方、大阪については5万分の1までの大きく見られる縮尺の取り扱いがあり、自分たちが住んでいる大阪について詳しく調べることができますが、東京書籍は中心部の詳しい地図として、京都と奈良の取り扱いしかないのが残念だと感じました。

帝国書院「江戸時代の結びつき」の資料や首都東京の地図と同じ縮尺の江戸時代後期の江戸の地図を掲載しており、昔との比較をしながら学習するときに役立つと思いました。

○濱崎教育長

社会科の教科書でも出ていましたね。大阪の取り扱いというのが、我々にとってはいいのかなと思います。他にございますか。

○富山委員

同じく目標・内容の取扱いという観点についてです。

普通に、同じところの地図を開けてパッと見た瞬間、帝国書院は立体的に見えます。東京書籍は昔小学校の時に見たなというイメージで、色使いが違うのか、すごく目にとびこんできます。何をどう色を使って文字を減らしているのでしょうか。帝国書院P40と東京書籍P26は同じ地図なのに帝国書院の方が見やすいです。見比べてみて情報を減らしているのかなという思いもありますが不思議です。これだけ表現を変えられるのかというところは改めて感動しました。

地図の使い方については、東京書籍がP5からP14までの8ページ、帝国書院がP7からP20の14ページと倍近く書いてあり懇切丁寧だなと思いました。

また、帝国書院は初めの説明が面白く、なぜか読み進められます。東京書籍は細かい字が多く少し見にくい印象でした。2冊を見比べた場合、目に入ってくる量が違うなと思いました。結局、子どもたちは自分が住んでいるところから始まっていくと思うので、やはり自分の地域が写っているかというところも大きいと思います。

○濱崎教育長

ありがとうございました。両方の解説の見やすさという点で比べていただきました。他にございますか。

○原委員

学び方の工夫という観点について、東京書籍は「マップでジャンプ」、帝国書院は「地図マスターへの道」といったクイズコーナー的なものがある、地図を学ぶ子どもたちの興味関心をひき、さらに理解を進めるための工夫があって面白いと思いました。クイズを解きながら地図を見ているような地方を知っていくということで、とても工夫がされているな、興味がわきやすいなと思いました。

○濱崎教育長

私も学び方の工夫で、東京書籍の「マップでジャンプ」という問いに興味を感じました。ホップ・ステップ・マップでジャンプという問いと作業のコーナーが設けられていて、地図帳から考えや発想を膨らませる応用問題があり、☆一つ☆二つ☆三つという3段階で作られています。☆一つ☆二つは、地図帳から探しましょうという見つける基本問題で、ゲーム感覚で楽しく取り組めて地図帳の活用になれます。☆三つは、距離を測ったり地図を作るなどの作業問題と、少し難しいクイズで構成されていて、答えは東京書籍の得意のQRコンテンツの中に内容を集約されていて、合わせて問題の進み具合などがわかる「がんばりシート」もQRコンテンツの中にあって、自分の取組みを可視化できるということで、子どもが開きたくなる地図帳の工夫がされています。学習というところではすごく力を入れていてスマートな学習の流れを作られるなと思います。他にございますか。

○原委員

補充的な学習・発展的な学習という観点についてです。統計資料については、どちらの発行者も詳しく書かれてよいと思いますし、日本の自然や産業など様々な地図資料を取り扱っていると思います。特に、帝国書院の世界地図のページには「世界のSDGs」という資料コーナーが各ページに設けており、巻末のSDGsの特設ページと合わせて、地図を学びながら、各国の課題にも着目させるような工夫があると思います。

また、自然災害と防災に関わる地図資料について、どちらの発行者も取り上げていますが、帝国書院の方が災害への備えや防災の取組みについてより多く資料を掲載し、防災マップづくりにつなげているところが、今後起こりうるであろう災害への関心や防災意識につなげる工夫があると思います。

○濱崎教育長

ありがとうございました。他にございますか。

○富山委員

同じく補充的な学習・発展的な学習という観点からですが、東京書籍、帝国書院ともに、社会科の学習内容と関連付けながら、活用できるように工夫された資料がたくさん掲載されています。例えば、東京書籍のP77日本の歴史と世界の関わりについてはいいですね。本当にすんなりと日本がどうかかわって来たのかをたった4ページで書かれているので、歴史が不得意な子に対しても目に飛び込んでくる書き方ですごく秀逸な資料だなと思いました。

帝国書院は、日本と世界の結びつきということで、貿易や食料問題にふれていて、

視点が違いますがどちらも甲乙つけ難い感じです。どこの教科も入っていますが、持続可能な社会を目指してというSDGsに関することもきちんと網羅されているので、昔小学校の時に見た地図帳とは全然違う、素晴らしく進化したようなテキストが出来ていて、見ていて欲しいなと思いました。手元においてもう一度じっくり読みたいというのが一番の印象です。

○濱崎教育長

私も、補充的な学習・発展的な学習で、正に地図帳が他教科とどう繋がっているのかということで、特に地図帳というのは読んで分かるより見て分かるところがすごく大事だと思います。どうしても地図帳の中で文章の説明もずっと眺めてしまいます。例えば、帝国書院では、歴史のテーマ地図や世界遺産のページを設け、学習が深められるように、特に歴史地名や歴史的事項が地図の中に豊富に掲載されており、見て日本の歴史や伝統が学べる・気づくことになると思います。また、外国の地図でアメリカ合衆国の地図を見ていますと、オズの魔法使いの物語の舞台となったカンザス州のところのオズの魔法使いの絵がかいてあったり、音楽の聖者の行進もミシシッピ州にイラストで示されているなど、外国の学習にも対応できるような工夫がされているなと思いました。

東京書籍も、さまざまな教科や場面で地図帳として社会科以外にも活用できる工夫がされていて、理科で活用できる方位磁針の説明があったり、家庭科では地図帳の中に地域に根差した食文化がちりばめられているとか、巻頭の世界地図では国名や特産物が全部下に英語表記されていて英語の勉強になったり、算数的に言えば、地図の縮尺とか普通の物さし1cmの絵を、単位をkmに変えてあったり、図形の拡大や縮尺など、様々な工夫をお互いされているなと感じました。他にございますか。

○足立委員

私からも補充的な学習・発展的な学習という観点についてですが、富山委員や濱崎教育長と重なると思いますが、東京書籍、帝国書院ともに、随所にQRコードの活用も取り入れており、豊富なデジタルコンテンツを用意されていると思いました。教科書には世界地図が載っていたり、食などの文化紹介が掲載されたりしています。少し派生する意見になってしまいますが、用意されているQRコード以外にも、無料で活用できる優れた地図アプリというものが一般社会的には公開されたりしているので、合わせて活用していただけるのであれば、より日本全体や世界の国に対して地理的な関心だけでなく、文化や歴史にも興味を持たせることができるのではないかなと思います。可能であれば、授業に取り入れてほしいと個人的には思いました。

○濱崎教育長

ありがとうございます。地図帳プラスQRコードは、なかなか変わった取組みで、いろんな観点で難しいかもわかりませんね。これからどんどん研究されてくる中身かなと思います。他にございますか。

○富山委員

先ほど原委員もおっしゃっていたのですが、災害、自然災害、防災は帝国書院の

方が秀逸で、東京書籍は過去の事例が載っていて、帝国書院は過去の事例とともに今後どうしていったらいいのかというところもあるので、子どもたちに生き残ってほしいので、こういう地図帳を見ながらどういうところが危なくて、今後どういう注意をすればいいのかというテーマが入っているというのは素晴らしいなと思います。どちらもQRコードがついていますので、そちらの方で補充されていたら伝えることはたくさんできると思います。

○濱崎教育長

他に意見はないでしょうか。では、採決をとります。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

東京書籍 0 人、帝国書院 4 人

○濱崎教育長

帝国書院が 4 名挙手されていますので、採決の結果、地図は、帝国書院を採択いたします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○濱崎教育長

それでは、帝国書院を採択いたします。

続いて、算数の教科用図書採択を行います。採択候補図書の特色等について、選定副委員長、簡潔に説明をお願いします。

○寺田選定副委員長

算数の採択候補図書 6 社についての特色等、説明をさせていただきます。

まず東京書籍でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に、「学び方の工夫」「補充的な学習・発展的な学習」において特徴が見られます。例えば、「データの整理と活用」について日常生活に生かされる題材を設定しており、3つのデータで比較をすることで授業の幅が広がる内容となっています。

このような理由から、選定委員会で推薦されております。

次に大日本図書でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「発達段階の考慮」において特徴が見られます。例えば、文章の記述や分量について、児童の発達段階を考慮した内容となっています。また、1年生の最初の3単元は、サイズの大きな分冊となっています。

次に学校図書でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「組織・配列」において特徴が見られます。例えば、これまで学習してきたことや生活の中にある問題を導入として扱い、めあてを作り課題解決的に新しい問題に取り組んでいく構成になっています。

また、単元末には「できるようになったこと」や「まなびをいかそう」「ふりかえろう」などが配置されています。

次に教育出版でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「発達段階

階の考慮」において特徴が見られます。例えば、筆算の仕方について繰り返しの数をわかりやすく記載するなど、発達段階を考慮したものになっています。

次に啓林館でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「学び方の工夫」において特徴が見られます。例えば、「データの整理と活用」について日常生活に生かされる題材を設定しており、3つのデータで比較をすることで授業の幅が広がる内容となっています。

このような理由から、選定委員会で推薦されております。

最後にもう1社、日本文教出版でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「学び方の工夫」において特徴が見られます。例えば、問題と考え方だけが示され、見開きだけで分からない工夫がされているなど、問題を自立的、協働的に解決する学習活動ができる構成となっています。

このような理由から、選定委員会で推薦されております。

以上です。

○濱崎教育長

それでは、委員の皆さま、審議をお願いします。

本当に予測不可能なこれからの時代の中で、どう生きていくのかということ言えば、一つの決め手として論理的な思考を駆使しながら正解を求めていくのかというところで、すごく情報やデータがあふれているいろんな環境の中で、子どもたちがどう整理しながら自分たちの正解を見つけていくのかなというようなことで、すごく算数が大事になってくると思います。そういう意味で算数を深く理解する従前の「習得・活用・探求」の学習に加えて、子どもが、じっくりと考える楽しさを知り、問題を自分で見つけて解決したり、解決した問題の先を考えたりする力が求められています。確かな数学的なものの見方・考え方を身につけて人生を歩んでいく子どもたちに適した教科書を選びたいと思います。ご発言ございますか。

○富山委員

目標・内容の取り扱いの観点からお話しします。世界では、基本的に足し算と掛け算で成立している印象を受けます。アメリカで仮に8ドルの物を買う時に、10ドル札を渡すと、あなたは8ドルの商品を持っているからあと2ドルで一緒ですねと2ドルのお釣りをくれます。引き算や割り算の概念がフランスでも見られないので、ほとんど足し算で物事が成り立っているという印象を受けました。ところが、日本人にとって千円札があって八百円のものを買ったら瞬時にお釣りは二百円という引き算を脳の細胞が瞬時に出しているの、区別・差別を出してはいけません、ここが日本の優秀性と感じたことがありました。そのため1年生の引き算の項目を一生懸命見比べてみました。啓林館がいちばん見やすく、数学的な発展性を感じられましたし、逆に1年生の時に引き算①、引き算②という2つに分けられて表現されているので、いかに引き算の大切なところを理解されて出しておられるのかと思います、いいなという印象を受けました。

○濱崎教育長

ありがとうございました。他にございますか。

○原委員

同じく、目標内容の取扱いの観点ですが、東京書籍の最初の目次について、それぞれの単元の左と右に記載されている、「前の学習」「後の学習」が学習する単元がどこにあたるのかを詳しく書かれているので、復習や予習をする際に関連付けしやすくなっていると感じました。

また、教員もそういったものを参考にできて指導しやすいのではないかと思います。

「マイノートをつくろう」というコーナーでは、実際の子どもの字を用いて作られているので、リアリティがあり子どもたちも参考にしやすいのではないかと思います。

同じく、東京書籍の方では表紙も印象的で、学年が上がるにつれ、数学的要素がとり入れられた作品の写真が使われており、子どもたちの創造性がふくらむので良いと思いました。また、学年によって、例えば6年生「数学へジャンプ」のような考えることがどうなっていくのかをサブタイトルにしているのも良いなと思いました。

○濱崎教育長

私からも、今、目標と内容で2つ出ましたが、組織・配列の観点で、特に全ての教科で幼児期から学校へ上がることへの繋がり・橋渡しがすごく大事だとこの数年言われてきていますが、特に他の教科は結構自然に入れる部分があるのですが、算数という教科は、たぶん子どもたちは幼児期の算数的な活動から学校で椅子に座って黒板を見ながら1から教えてもらう算数は結構違和感を感じるような抵抗感を感じるような形が算数が一番大きいのかなと思います。そういう意味で、難しそうとか、つまずくとか、そういったところ何とか1年生から上手に算数に入っていくということで、日本文教出版は、例えば1年上で、幼児期の活動と算数のつながりを絵本仕立てで描かれており、「これまでの生活の中にも算数が隠れていたんだよ」という呼びかけと気付きから「これが算数で、こんなことで勉強するんだ。これなら私たちでもできるな」という学習への期待感を膨らませるよう保幼と小学校の連携を上手に工夫されているなと思います。

それから、先程から重要だといっていた見方・考え方の観点では、啓林館が特にしっかりと抑えておられますね。5年生で、算数で使いたいという考え方を、中学校・高校へ行けば、図・演繹・類推・帰納・統合・発展という言葉にまとめられていきますが、それに対応するように図を使って訳をはっきりさせる(演繹)、同じように考える(類推)、決まりを見つける(帰納)、結び付けて考える(統合)、広げて考える(発展)というように柱をきっちり置いて6つにまとめて、しっかり価値づけて見方考え方を教えていて、教科書の中にもそれを強調するようにマーカー等ではられている工夫があるなと思います。他にございますか。

○足立委員

組織・配列に関して、新しい課題に取り組む際には、その学習の目標やめあてなどを子どもたちが意識して学習を始めるということは、学びの深まりにつながるものだと思います。大日本図書、学校図書、啓林館、日本文教出版は、項目毎に「学習のめあて」を設定されていて、問題解決的に取り組むような構成になっていると

いう点で優れているなど感じました。

啓林館では、巻末に「学びのサポート」として問題が補充されていました。他の教科書会社も巻末に同じような補充問題がありましたが、啓林館は、学習の前に準備しておく問題や難易度別の問題が用意されていて、子どもの興味関心に応じて自主的に学習できるものになっているのではと思いました。

○濱崎教育長

特に、問題に出合ったときに子どもたちの問いや気づきがどの教科でも主体的な学習のスタートかと思います。

学び方の工夫ということで教科書を見比べていますが、日本文教出版の5年生で、教科書の中に教室があって、教室に居るような雰囲気です。授業が進められているという感じ。例えば、5年生の体積の求め方の工夫の学習で、3ページにわたって黒板を背景に教室での学習場面を表されています。これはそのまま学校でも黒板の板書例として使えるなどという工夫がなされているように思います。見方・考え方も含めて思考の過程が丁寧に示されているなどと思いました。

学校図書は、対話的な学習で学び、みんなで解決する姿勢を学べるようになっていたと思います。2年上巻の話し合いの場面では、いろいろな考え方に触れる内容になっているし、6年では、分数の計算にまたキャラクターが出てくるのですが、はるとさんとひまりさんの2人のキャラクターの考えを出して、考え方モンスターが2人の考え方を比較させるような提案の投げ方の助言が示されており、「みんなと学ぶ」というのが学校図書のポリシーだと思いました。考え方モンスターの名前も、マトメル、ベツアラワシ、ヒトツツなど少し読みにくいですが算数で重要な見方考え方がキャラクターの名前になっていて、楽しく学べるということで面白いと思いました。他にございますか。

○足立委員

私も学び方の工夫という観点で拝見させていただいたのですが、各社冒頭に「ノートの作り方」が掲載されています。個人的には東京書籍が一番具体的でわかりやすい内容だと感じています。特に間違えたところは消しゴムを使わず二重線で消すと書いてあるところがあって、答えだけが合っていたらいいということではなく、考え方のプロセスというところも振り返っていくことで、算数というものの学びを深めるというところに繋がっていくのではないかと感じていいまして、ノートをつくるのが個人的には大切だなと感じていますので、こういうところを捉えてみても非常に好感が持てるなどと思っています。

○濱崎教育長

ありがとうございます。大昔の授業でしたら、教科書の中にノートはあまり書いていなかったですね。ノートの指導は教師（学校の先生）が教えるものでした。この頃は基本的に授業とノートがセットになって教科書の中につくられており、そこにいろいろな思考が入っているので、その見極めが大事なかなと思います。特に算数の中でのノートというのも大切だなと思います。論理的な思考ができるように、どうノートを整理していくのかということ、これもまた課題になるのかなと思います。他にございますか。

○原委員

学び方の工夫という観点で各社を見ますと、ほとんどの教科書において、子どものふきだしを使ってヒントや考え方を示しているのがわかりやすいと思いました。その中でも各社特徴があり、例えば、東京書籍6年P127と日本文教出版6年P117を見て比較して考えてみたのですが、日本文教は□に数字を書き込んでいき、ヒントを元に3通りの考え方の答えをだす手法となっています。全体的に日本文教出版は、このように□で書き込むところが多いのですが、そこが考え方のコツになっているところであり、考え方の経過や結果がわかる箇所となっていると思います。それに対し東京書籍は3人の考え方をそれぞれ比較し、説明して理解していくという手法です。日本文教出版のほうがわかりやすいかもしれませんが、考え方をみんなでディスカッションして考えていくのは東京書籍のほうが良いかもしれないと私は思いました。

また、日本文教出版の巻末には、「算数マイトライ」として、補充問題や発展おもしろ問題にチャレンジする問題集があり、学習をより深めることができる内容になっているなど感じました。

○濱崎教育長

ありがとうございました。他にございますか。

○富山委員

補充的な学習・発展的な学習という観点で各社を見たのですが、全て工夫されています。各社それぞれ違うのですが、啓林館6年「未来へのとびら お仕事インタビュー」があり、算数から数学に変わっていく一番大切な6年生の時に、その中でミニチュアアーティストや情報科学者、スポーツデータ、ロボットエンジニアなどが出てきているので、数字の話ですが将来発展していくこういう特殊な仕事にもなるというところを6年生に伝えるというのはすごく重要ななと思いました。大日本図書にも「算数 お仕事インタビュー」が載っています。数字が嫌いにさせたら勿体ないと思います。やはり数字に強い人、数字を言える人、算数・数学というのは不得意じゃないですと言ってもらえる大人に導くために小学校のテキストは本当に重要だと感じています。

著者数を比べたところ、東京書籍102名、大日本図書54名、学校図書75名、教育出版40名、啓林館119名、日本文教出版71名でした。必ずしも著者数が多いればいい本とは言えないと思いますが、それでもやはり各大学・高校の先生方が子ども達に何を伝えたいのかというところの知恵が入っていると思いますので、少ないよりかは多い方がいいかもしれないという傾向を持っています。

○濱崎教育長

ありがとうございました。私も補充的な学習・発展的な学習の観点から、いわゆる技能を定着させる、例えば、円の描き方やひっ算の仕方、図形の展開図とかは、見て解決していくものは正に今QRコンテンツの出番かなと思います。

東京書籍は技能定着のための映像コンテンツを多数用意されています。例えば、3年下「円のかき方」は、QRコードで左利きや別アングルからも示されています。

し、3年下「もとなる大きさを求めるために図に表そう」では、QRコードで図のかき方を段階的に示されています。

啓林館は、数学的な学びがより深まることへの追求として、実体験とデジタルがベストミックスするように教科書を考えていこうという追求の仕方で行っていると思います。いわゆる実体験のよさと、数学的な学びがより深まるためにQRコードがどう配置されているかという様なことで、特にそういったことが充実していけば個に応じた一人ひとりの学びがかなりサポートされてきて、どんどん進路が違って進んでいけるようなものが作られてくるのかなという、少し未来型になりますが期待がかかると思います。

教育出版は、單元ごとに典型的な間違いが起りやすい問題をクローズアップされていて、つまずきのポイントを丁寧に支援されているところはすごく好感が持てるなと思いました。他にございますか。

○足立委員

発達段階の考慮という観点において、1年生初期の対応として、親しみやすさを重視した分冊的な作りがそれぞれの出版社で見受けられますが、特に啓林館では1年生の最初の4単元が「すたあとぶっく」という一つの教科書よりもサイズの大きな分冊になっていて、大きいサイズになっているのでイラストが大きく扱えていますし多く配置されていて、それが見やすさに繋がっているなと思いました。それと、就学前の経験を思い起こしながら学びに繋がられるような活動の場面から始まっているので、算数を身近に感じるための配慮が感じられると思います。

○濱崎教育長

ありがとうございました。他にございますか。

○富山委員

東京書籍6年に和算という江戸時代に発達した日本独自の数学の事に触れていて、中学校のテキストにもふれてありましたが、当時、日本独自の和算によって水路から田んぼに水を引く \sin, \cos, \tan (三角関数) 並みのことをしていました。今、どうしてもパン食に移ってお米を食べる機会が減っていますが、やはり日本の先人たちが日本独自の和算を利用して水路を作って田んぼを作ってきたということをしちんと子ども達にも伝えてあげたいと思います。その和算が書かれているのでいい本だなと思いました。

○濱崎教育長

他に意見はないでしょうか。では、採決をとります。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

東京書籍 1人、大日本図書 0人、学校図書 0人、
教育出版 0人、啓林館 2人、日本文教出版 1人

○濱崎教育長

東京書籍が1名、啓林館が2名、日本文教出版が1名挙手されていますので、採

決の結果、算数は、啓林館を採択いたします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○濱崎教育長

それでは、啓林館を採択いたします。

ただ今より休憩に入ります。13時より再開いたします。

～昼休憩～

～再開～

○濱崎教育長

臨時教育委員会会議を再開いたします。

続いて、理科の教科用図書採択を行います。採択候補図書の特色等について、選定副委員長、簡潔に説明をお願いします。

○寺田選定副委員長

理科の採択候補図書5社についての特色等、説明をさせていただきます。

まず東京書籍でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「目標・内容の取扱い」において特徴が見られます。例えば、場面で主に働かせる「理科の見方・考え方」を、青枠で囲み、具体的に明示されていて、児童は、それらを意識的に働かせながら思考することで、「深い学び」を実現し、問題解決の力が育成されるように配慮されています。

このような理由から、選定委員会で推薦されております。

次に大日本図書でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「発達段階への考慮」において特徴が見られます。例えば、児童の発達段階に応じた分量と、わかりやすい表現で記述されています。また、写真、挿絵、図、表などの資料について、児童の発達段階を考慮した内容となっています。

次に学校図書でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「組織・配列」において特徴が見られます。例えば、巻頭「理科の世界を冒険しよう」「科学の芽を育てよう」で年間の見通しを持ち、巻末「理科の世界をふりかえろう」で、どのような力がついたかを確かめられるようになっています。

次に教育出版でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「発達段階への考慮」において特徴が見られます。例えば、児童の発達段階に応じた分量と、わかりやすい表現で記述されています。また、「見つけよう」では、子どもたちが主体的に問題を見つけられるように工夫されています。

このような理由から、選定委員会で推薦されております。

次に啓林館でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「発達段階への考慮」において特徴が見られます。例えば、「見つける」「調べる」「まとめる」の3段階の学びのサイクルを繰り返すことで、問題解決の力を高めようとしています。また、問題解決の各過程を言葉で大きく示すとともに、全ての過程を学びのラ

インでつなぐことで、児童自身が見通しをもって主体的に学べるように配慮されています。

このような理由から、選定委員会で推薦されております。

以上です。

○濱崎教育長

それでは、委員の皆さま、審議をお願いします。

ここに教科書がならんでいますが見るだけでワクワクして楽しいです。そんな中でいかに科学的な思考をどう育てていくのかということが大きな課題となってくると思います。

「身近に疑問を持ったら理科の学習は始まっている」といわれています。素晴らしい導入の言葉だと思います。小学校理科は、未来を担う子が初めて科学的思考の場として出会うところで、豊かな自然に体験的に触れて、問題を見出し、他者と協働して問題を解決していく。これが科学的な営みを大切にする活動の中で、ものの見方、考え方が変わり、生活がもっと面白くなる。子どものわくわく感や「もっと知りたい」があふれている教科書を選びたいと思います。何かございますか。

○富山委員

学び方の工夫の観点ですが5年生「種子の発芽と成長」を比べました。どのテキストも本当によくできています。発芽の3条件から実際の実験体系といい、本当に小学生のテキストかと思うくらいの内容が示されていると思います。

東京書籍は未来につなげる「種子バンク」のことを書いています。今年のような温暖化でなく沸騰化したような地球では、栽培種が枯死していく可能性があります。そういう時に古い品種の方が耐暑性があったことがあるので、こういう種子バンク＝種の状態で保存されていることについても、すごく発芽という基本から一番大切な人類の食料をなくさないためにここまで工夫していると書かれていることが秀逸だと思いました。

啓林館は「森林を人がまもる」で発芽から応用として書かれています。自動灌水に関しても本当によく書かれていると思います。必ずQRコードも載せているので広がりを感じると思います。

教育出版は有名な大賀ハスが載っています。大賀先生が1200年前のところから取り出した種を発芽させてできたものですが、今は日本全国の植物園に広く広がっています。小説に書いていたため、ハスの花が咲く際に音が鳴るといいますが、本当は鳴らないといったことなどのちょっとした「科学のまど」を入れていただくだけで子どもたちの理系好きの人間を増やしていけるかなと思いました。

○濱崎教育長

ありがとうございました。小学校の理科は科学と日常が繋がっているところがとても面白いと思います。

学び方の工夫のところで、啓林館は、算数の時にも言いましたが、正に実際とデジタルとをどうベストミックスさせていくのかというところで、情報化の時代の学びに対応するために、理科として大切な直接体験とICTとを適切に組み合わせるということで努力されていると思います。見ていただくと、各学年の巻頭に「学び

の中でICTを活用してみよう」とははっきりと明文化して新設されているということで、ICTの活用について、例えば4年「ICTは道具の一つとして、自然とじっくり向き合うことが大切だよ」とし、観察実験の代替えではない、手段が目的化しないよう注意されています。また、6年の理科の楽しみ方「自然の不思議見つかるかな？」では、協働的に問題を解決する学びのサイクルを3段階にして図で示しています。子どもたちが意識的に理科の見方、考え方という大事な項目を働かせるように、吹き出しに緑色のマーカーではっきりと強調しており、問題解決をするのに、どんな見方、考え方で調べたのか、振り返って分かりやすく表現しています。

教育出版では、問題解決の力を育てる場面で、学年のちからを設定しています。3年の力「見つけよう」4年「予想しよう計画しよう」5年「計画しよう」6年「結果から考えよう」という項目を立てられて、具体的な学習の中でキャラクターが子どもの発言と先生の支援の言葉から、3年では、問題を見出す力、4年では根拠のある予想や仮説を発想する力、5年では解決の方法を発想する力、6年ではより妥当な考えを創り出す力など、より具体的に明示されて工夫され、目標として大変わかりやすいなと感じました。他にございますか。

○足立委員

啓林館では、巻末に「オッターの資料室」というタイトルで、理科という教科についての取り組み方などの記載があります。そのなかでも「理科につながる算数の窓」を表示し、教科横断的な働きかけを意識されており、他教科への関心も高めようとする姿勢が、個人的には好感が持てます。

東京書籍4年生P180～の巻末に「理科の調べ方を身につけよう」というページがあるのですが、学び方から実験道具の取り扱い方まで具体的な記載になっていて非常にわかりやすいと思いました。その中でも実験道具の片付け方まで記載がある点には、個人的に啓発する上でも非常にいい点だという印象を持ちました。

○濱崎教育長

ありがとうございました。どの発行社も学び方の工夫ということで、各社特色をあげていただいています。

もう一つ学び方の工夫のところから、学校図書は、小学校では科学的な芽を育てるくらいでいいのかなと思っています。見つける・気づく・予想するなど、そんな力が理科的につけてきたらいいのかなと思います。ここでも、理科モンスターが登場します。例えば、4年で会える理科モンスターは、「発見モグラ」「予想バード」「計画アリ」で、理科で身につけたい力を頭につけて子ども達が喜ぶようなネーミングになって、大変興味深く面白いです。理科の見方考え方を使いながら問題解決していく過程で身につけていきたい能力を理科モンスターとして表現されています。個々の力を楽しみながら捉えることができ、楽しみながら学んでいく工夫がされています。各学年の問題解決のポイントに合わせて理科モンスターが進化していくのは、いいアイデアだなと思います。子どもたちが学びやすく工夫されていると感じました。他にございますか。

○原委員

目標・内容の取扱いの観点で、東京書籍では、どの学年の教科書も、ページの左

側に「問題提起」→「観察、実験」→「考察、まとめ」と勉強していく流れが書かれていてわかりやすくなっています。

さらに東京書籍は、理科で養われる力の表記が明確です。【結論】が大きく枠組みされていてわかりやすくなっています。そして、3～6年においてパンダのキャラクターが登場して、ヒントやアドバイスをしてくれるのが、子どもたちにとっては親しみやすいと思われます。また、教科書がA4サイズで大きくみやすく、表紙の子どものアップの写真がとても楽しそうな感じで表情が豊かだと思います。

○濱崎教育長

学習の流れがわかりやすいというのは教科書の中では大切な見やすさですね。動物のキャラクターがヒントやアドバイスをよくしていますね。他にございますか。

○富山委員

補充的な学習・発展的な学習について、理系出身の人間にとって、科学的なものの見方、考え方は生きていくうえで本当に楽しい分野です。空を見ても海に入っても自然界の不思議をすべて解明させようと、実験を繰り返す毎日です。実験といっても、勉強ではなく、ただの遊びかもしれません。実験はいつも失敗の連続です。失敗を繰り返す度に、設定条件を変えてまた実験を行います。次の実験が成功するかもしれないという確信を得られたときの何ものにも代えがたい喜びがあります。生物学は過去に解明されたものを暗記するだけの学問と思いがちですが、それは間違った認識です。生命ほどわからないことだらけのものはありません。まずは生命の不思議さを体感する前に、最低限の生物学の知識は必要と考えています。生物の細胞分裂は糖エネルギーによって繰り返され、DNAの命令から、複製されていきます。生物と化学を融合した生化学という学問が次に必要となってきます。

啓林館6年P67「くらしとリンク」を開けてください。今まで理系の一般的・科学的なものの見方の話をしていましたが、ちょうど30年前に枯れない花をつくれないうこと、ドイツ、オランダ、日本で必死に研究しました。そしてプリザーブドフラワーという色素を抜いて色素を入れて水やりしなくても枯れない花が30年前にできあがっています。その中で、この開発者の方は7色のバラを作られました。どうしたら花卉それぞれに違う色を着色できるのかという実験を何度繰り返されたのかと思う姿が格好いいです。ちょっとした人の憧れを具現化していくという基礎が理科にはあるのだろうと思いつつ、すべての教科書を読みながら感動していました。

○濱崎教育長

ありがとうございます。生命の不思議と死なないという「畏敬の念」などと繋がっていきませんが、それだけでもワクワクドキドキ、もっと知りたいなというところを刺激するように思います。他にございますか。

○原委員

発達段階の考慮で、東京書籍は単元ごとの最後に「ふりかえろう」というページがあります。手書き風の資料やまとめたものが1つになっており、子どもたちが自分でノートをまとめたりするときに、イメージしやすく工夫されています。それに

比べて、教育出版社は手書きのものがあまりない感じに見受けられました。また、「たしかめよう」では、記入式にもなっており、わからないときや間違えた時など、参考ページが書いているので、復習などをするときに戻りやすくなるよう配慮されています。さらに、目次が裏表紙に一覧になっていて、ページの内部にあるより見やすいと思いました。ほかにも算数との関連性や活用も載っていて、理科と数学との関連性について説明されているのがとても良いと思いました。

○濱崎教育長

ありがとうございます。いろいろ数社見比べていただきました。目次が裏表紙一覧になっているのはたいへん見やすいなと思います。他にございますか。

○足立委員

人権の取扱いの観点で、それぞれの教科書に見やすさの配慮がされており、例えば単語や意味が途切れることがないように、文章の改行の配慮がなされているなどという印象で、個人的には啓林館が全体的に読みやすくなっている印象を受けました。東京書籍と大日本図書は、A4サイズの教科書になっていて、構成的に紙面の使い方として余裕があり、見やすくなっている印象を受けました。

○濱崎教育長

ありがとうございます。見やすさというおまとめをいただきました。他にございますか。

○富山委員

東京書籍6年の表紙は、ただの水槽ですが、それを眺めている子どもさんの表情はすごくいい顔だと思います。子どもの頃、父に誘われて富田林にある某団体の植物の研究所に行って、そこの先生が丸い球体のガラスを持って来て、これは地球でNASAからもらったといわれました。また、蛍光灯の下に藻が2本、エビが2匹入っている球体水槽があって、蛍光灯が太陽光の代わりになって、藻が光合成をして酸素を出してエビが生きることができ、エビのフンも肥料になって、バランスさえ合えば、これも一つの地球であると教えてもらいました。簡単な装置で子どもさんの気持ちは変えることができるんですね。この表紙の子どもさんはすごくいい顔をされていると思います。

著者数は東京書籍120名、大日本図書90名、学校図書49名、教育出版62名、啓林館108名でテキストができています。100人近い先生方が集まって書くというのは本当にすごい事だなと思って感動しています。

○濱崎教育長

他に意見はないでしょうか。では、採決をとります。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

東京書籍1人、大日本図書0人、学校図書0人、教育出版0人、啓林館3人

○濱崎教育長

啓林館が3名、東京書籍が1名挙手されていますので、採決の結果、理科は、啓林館を採択いたします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○濱崎教育長

それでは、啓林館を採択いたします。

続いて、生活の教科用図書採択を行います。採択候補図書の特色等について、選定副委員長、簡潔に説明をお願いします。

○寺田選定副委員長

生活の採択候補図書6社についての特色等、説明をさせていただきます。

まず東京書籍でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「組織・配列」において特徴が見られます。例えば、季節の流れに寄り添いながら、単元構成が考えられています。また、上巻の「ドキドキわくわく 1ねんせい」では、スタートカリキュラムとして「幼児期の終わりまでにそだってほしい姿」が記載されています。

このような理由から、選定委員会で推薦されております。

次に大日本図書でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「目標・内容の取扱い」において特徴が見られます。例えば、自分自身や自分の生活について考え、表現することについて適切な内容が取り上げられています。例えば、「せいかつことば」では、児童の語彙力向上とともに、豊かな表現力の育成、表現活動の充実が図れるように工夫されています。

次に学校図書でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「目標・内容の取扱い」において特徴が見られます。例えば、自分自身や自分の生活について考え、表現することについて適切な内容が取り上げられています。例えば、各単元において身近な人々、社会および自然との関わりを「はっけんカード」などワークシートに記録したものが示されており、単元末ではそれらを多様な表現でまとめ、振り返ることができるよう構成されています。

次に教育出版でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「補充的な学習・発展的な学習」において特徴が見られます。例えば、学習や生活を振り返り、生活上必要な習慣や技能の習得を確かなものにするため、「何をかんじたかな」が設けられています。また、巻末の「学びのポケット」では、「まとめよう はっぴょうしよう」で発表の方法が11種類示されています。

次に光村図書でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「補充的な学習・発展的な学習」において特徴が見られます。例えば、学習や生活を振り返り、生活上必要な習慣や技能の習得を確かなものにするため、「たのしいまいにちにつなげよう」が設けられています。

このような理由から、選定委員会で推薦されております。

最後に啓林館でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「組織・配列」において特徴が見られます。例えば、季節の流れに寄り添いながら、単元構成が考えられています。また、「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」という3段階で

の単元構成がインデックスとして紙面に表示されています。
このような理由から、選定委員会で推薦されております。
以上です。

○濱崎教育長

それでは、委員の皆さま、審議をお願いします。

生活科の学習は、何度も出てきていますが幼児期から小学校をどう結び付けていくのかというところが各教科の大きな課題ではありますが、特に生活科の科目の中では、まさに幼児期の生活をどう大切にしてあげて小学校に上手く繋げていくのかというのが一番大きな観点だと思います。正に幼児期らしい興味関心、幼児期らしい夢中になって取り組むということがもう少し全面に小学校生活の中でも出てきたらいいのかなという意味では、一体になっている遊びと学びをどう分けていくのかという観点と思っています。そういう意味で生活科の学習は、身近な人や自然、社会など身の回りのものが全て学習対象になります。「これは何かな」「もっと楽しく」「一緒にやろう」などの具体的な体験や活動を通して、小さな気づきや疑問を追究していく。夢中になって活動する子どもを育てる教科です。

遊びが学びの幼児期の経験を生かした「豊かな体験と活動」を大切にして編集された、わくわくする教科書を選びたいと思います。

○濱崎教育長

発達段階の考慮の観点で言いますと、先程も説明したように幼児期の姿を意識するということになります。何よりも生き生きとした子どもの姿・活動にどう引き込んでいくかが重要です。そういう意味で生活科はワクワク活動することがメインと考えています。

東京書籍の単元の扉では、単元の学びが見えるように構成されています。生き生きとした子どもの活動の様子をダイナミックな写真で、見開きで構成し掲載されています。上巻の「はなをさかせよう」では、生き生きとした子どもの活動している表情からこれまでの経験を思い出させて、活動に見通しを持つことができるよう上手く写真を使って工夫されています。また、扉の小ページ「かつどうべんりてちょう」では、学習のサポートをしていて、幼稚園・保育園のときの経験をしっかり思い出させて工夫させているところが好感が持てます。

また、生活科では、幼児期という子どもの姿を見た時に、学習の動機付けが難しく、なかなか活動に入ってこないという状況が幼稚園の活動の中でもあります。その点を踏まえて、教育出版の上では、「わくわくスイッチ」というコーナーで面白いことに出合えそうだという期待感、遊び心のある「しかけ」を通して、「やってみたい」という学習のイメージと見通しを持たせる工夫がされています。また、「発見ロード」で「いぐら」というモグラのようなキャラクターの登場は漫画「頭がこんがらがっちゃ劇場」の人気キャラクターで、ピタゴラススイッチ企画でつくられたそうです。このキャラクターを使いながら、学習の道筋が描かれており、紙面の下に単元の見通しをインデックス風に工夫して示されているところが見ていて面白と思いました。他にございますか。

○原委員

同じく、発達段階の考慮の観点から、光村図書の下P88～95生活科のまとめみたいな感じでは、「いまのわたしはどんなわたし」という感じで取扱われていますが、写真、イラスト、子どもたちの実際の字で書いてあるレポートなどを使って、ふきだしもうまく使って低学年の子どもでも考えやすく工夫されていると思います。具体的な事例が多く出されていて、同じようなレポートを書くときの参考にしやすくなっています。

まとめのところでは、光村図書と東京書籍は成長した自分を深めて考察している感じでまとめられています。啓林館はそれと比べて少しページ数が少ないと思いました。

光村図書下の3年生の学習に入る前段階で、イラストの話がとても絵本的で低学年の子ども達には読みやすくて良いと思います。

○濱崎教育長

ありがとうございます。正に生活科の教科書は、写真やイラスト、キャラクターで楽しさを演出しているのかなと思います。他にございますか。

○富山委員

組織・配列の観点で、下巻に野菜作り(野菜のお世話をしましょう)が書かれています。学校図書がいろんな作物の注意点を上手くイラストでまとめられているので、これは秀逸だと思いました。野菜嫌い・野菜が食べられないというのは、実は舌がセンシティブで痛いんです。幼稚園の先生方が園児に対し「なぜニンジンを食べないの」と言われている姿をみると、「それは痛いから食べられないのです」と先生方に説明していく必要があるのかもしれない。

でも、実際育てて収穫するということの喜びを小さいときから教えてあげたい。野菜で遊んだりして、親しみをもってもらうことが重要かなと思っています。

それにしても、どちらの出版社もよくできていると思いました。

○濱崎教育長

ありがとうございます。生活科は植物を育てることが主役になっていますので、いろいろな問題も出てきます。他にございますか。

○足立委員

組織・配列に関して、啓林館では、幼稚園から小学校への移行をスムーズに繋ぐような冒頭の構成になっているように感じました。また、「わくわく」、「いきいき」、「ぐんぐん」の3段階での構成になっており、児童のやる気と興味を駆り立てるような活動が期待できると感じました。

○濱崎教育長

ありがとうございました。組織・配列に関して、先程から何度も出ていますが、幼児期からいかにスムーズに小学校に繋げるかというのが大きな課題と思っています。足立委員のお話しにもありましたが、幼児期からの学びというのは、幼稚園の教育要領とか保育指針では、幼児期に育ててほしい10の姿という視点でつくられています。そういう視点で、啓林館では、「スタートブック」という子どもにとって

はなじみ深いものとしてつくられているのかなと思います。下巻巻末の3年生以降につなぐことも大事なことで、こちらでは「ステップブック」という幼児期かあまり無理のない段階で小学校に入って来た2年間の学びのストーリーを3年生で思いっきり広げていくことで、成長を振り返り3年生以降への期待感へつながるよう上手に配列されているなと思っています。他にございますか。

○富山委員

学び方の工夫という観点で、せいかつ上の「はなをさかせよう」を比較しました。東京書籍の7種の種子、花、芽生え、つぼみ、結実した果実などの画像が秀逸でした。啓林館のわくわくせいかつ上の「わたしのはなをそだてよう」もよくできていますが、東京書籍と比較して、植物数が6個で1つ少ないです。やはり情報量の多いほうがよいと思われます。

また、啓林館ではP34にたねのふしぎという頁には1粒のタネから採れるタネ数を視覚で見られるようにしているところが秀逸です。世界最大の大きさを誇るフタゴヤシの種子画像もあるので素晴らしいと思います。ここに世界最小の大きさであるラン科植物のタネ画像もあれば、子どもたちに地球の不思議さが少しでも伝わるかなと思います。

○濱崎教育長

ありがとうございます。同じく学び方の工夫で、学習活動の在り方に入っていきますが、一般的に学習活動ということになれば、主体的で対話的で深い学びという目標がありますが少し生活科では難しいと思います。

東京書籍の下巻は、伝え合う場の構成を、具体的な板書や掲示物の例をイラスト化して見て分かりやすく示しています。「学びを深める」で言語活動を通していますが、「学びを深める」という言葉は少し難しいですが、「気づき」という言葉で言い換えると、低学年の課題にぴったり合うのかなと思います。生活科で大切にするのは、学びの中でも「気づき」が大切だと思います。その質が高まることを「深い学び」の例として掲載されていて話が繋がっていくので、国語科での学習を生かす工夫ができるような内容になっていると思いました。

学校図書は、個とみんなの学びの両方が深まることが大切にされています。上巻下巻を通して、キャラクターが成長していきます。上巻では先生の登場が多く、先生が指導している感じです。下巻では先生は少なくなってきた、メインキャラクターを設定し、はじめは期待や不安を持った子どもが、みんなのかかわりのなかでどんどん成長していく姿を表現しています。メインキャラクターとその他でふきだしを分けてストーリーがわかるようにしていて、子どもたちがキャラクターと一緒に成長していけるといふ、キャラクターが実際の子どもの心をフォローし、代弁しているようなところに好感が持てます。他にございますか。

○足立委員

人権の取扱い、補充的な学習・発展的な学習の纏めての話です。光村図書では、A4サイズで、非常にシンプルなレイアウトにしているので、イラストや写真が大きくとても見やすくされています。表紙も含めて絵本のような印象で、実際にこのイラストを提供されている方は人気絵本作家の方なので、そのイラストを大事にし

よとしたら必然的にそういうようなまとめ方になるのかなと思いますが、比較的
文字が少なく、理解するためのイラストや写真が多くなっています。先生の説明の
仕方に左右されるような可能性もあるかもしれないと思ったところがありました。

光村図書と啓林館は、それぞれの会社でもワークシート例が載っていましたが、
比較的多く掲載されているような印象を受けました。取り組みにくさを感じる児童
にとっては、非常に参考になるようなものが載っていますので、補助になるよう配
慮がされていると思いました。

啓林館では、「デジタルたんけんブック」があり、デジタル教材が充実していると
感じました。また、上P106「びっくりずかんライブ」という紙面があり、図鑑
類も充実している印象を受けました。発展的な学習や補助的な学習への活用も期待
できるいい教材だと個人的には思いました。

○濱崎教育長

ありがとうございます。デジタル教材のお話を出していただきました。まさに子
どもたちのもっと知りたいというところを、どう意識するのかというところと、デ
ジタル教材の関わりというのがあると思います。最後の方で啓林館の「デジタルた
んけんブック」という言葉が出ましたが、生活科の学習がやはり探検なのかなとい
うところで、学習にぴったりだと思いました。他にございますか。

○原委員

人権の取扱いについて、光村図書では、車いすに実際に座っている子の写真が出
ていました。他社は、車いすの子はイラストになっているものが多いでした。また、
光村図書は外国人の子どもについても写真で出ており、人権的な取扱いに配慮が見
られると感じました。東京書籍でもでていますが、割合的には光村図書の方が多い
と思われました。

同じく光村図書では、全体的に子どもの写真が多く、低学年の子どもたちには親
しみやすい構成になっていると思います。教科書に出てくるイラストも写真とは対
照的な絵本風のほんわかした感じになっていて、絵本をみているみたいな安心感、
ホッとする感じがして親しみやすくなっていると思います。

○濱崎教育長

ありがとうございます。正に多様化の時代がやってくるということで、どこも人
権的に言えば多様性が大きなテーマになるのかなと思います。その理念に合うよう
にいろんなところで工夫がされているというふうに思います。他に意見はないでし
ょうか。では、採決をとります。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

東京書籍 2 人、大日本図書 0 人、学校図書 0 人
教育出版 0 人、光村図書 1 人、啓林館 1 人

○濱崎教育長

東京書籍が 2 名、光村図書が 1 名、啓林館が 1 名挙手されていますので、採決の
結果、生活は東京書籍を採択いたします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○濱崎教育長

それでは、東京書籍を採択いたします。

続いて、音楽の教科用図書採択を行います。採択候補図書の特色等について、選定副委員長、簡潔に説明をお願いします。

○寺田選定副委員長

音楽の採択候補図書2社についての特色等、説明をさせていただきます。

まず教育出版でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「組織・配列」において特徴が見られます。例えば、教科書の巻末に見開きでリコーダーの運指表が掲載されており、違うページの楽譜を見ている指づかいを見ながらリコーダーの練習ができるように配慮されています。

次に教育芸術社でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「発達段階への考慮」において特徴が見られます。例えば、楽曲の難易度が基礎的な部分に重点を置いており、スモールステップで習得することができるよう配慮されています。

このような理由から、選定委員会で推薦されております。

以上です。

○濱崎教育長

それでは、委員の皆さま、審議をお願いします。

音楽は好き嫌いに関わらず豊かな生活になくってはならないものです。音楽の時間に感じ、体験し、学び、そして自分で音楽の事を考える等、豊かな活動が行われ、楽しみながら音楽の学びと向き合うことができたらいいなと考えています。子どもたちが音楽をする喜びや楽しさを紙面から感じ取れるような教科書を選びたいと思います。何かございますか。

○富山委員

目標・内容の取扱いの観点について、6年生の目次を見比べてみて特に秀逸だと思ったのが、教育芸術社の「心をつなげよう」→「味わおう」→「感じ取ろう」→「楽しもう」→「詩と音を味わおう」→「世界の音楽に親しもう」→「思いを伝えよう」という目標設定が、一つの音楽でここまで分けられるんだと大変感動しました。まず、どう伝えるのが大切で、音が僕たちの精神に及ぼすところをカテゴリーやコンテンツを分けておられるのを推したいと思いました。

○濱崎教育長

私も目標・内容の取扱いで、教育芸術社の各学年の表紙を見比べていただけますか。裏表紙に表紙テーマの説明があり、テーマとしては「音楽との出会いと探検」になっています。ここであえて音楽の探検という言葉を使っておられるのは、子どもたちにとって未知のものと出会っていくのかなという期待感があって、「音楽の時

間にどんなことをするのか」という視点でみていくと、例えば3年生の表紙で見ますと、金管楽器が出てきて後ろの富士山の絵が描かれているところからいうと「富士山」の歌に出会うんですかね。新たに金管楽器の演奏もするのでしょうか。全体を見ていくと子どもの数が同じキャラクターですがどんどん増えていって、最後の方ではみんなで先程の多様性の事も含めているような子どもが出てきて学びが広がっていくなあとということで、協働の大切さ、探求の大切さといったものが、表紙を見てこんな未知のものに出合いますよということから教科書が誘導されているのかなということが面白いなと思いました。他にございますか。

○原委員

学び方の工夫について、教育芸術社は、曲や課題ごとに「見つける」、「考える」などのマークがついていて、いま何を学習していくかが分かりやすくなっていると思いました。子どもやねずみのキャラクターがふきだしを使って意見やヒントを言っていたり、全体的に見て親しみやすいイラストが多いと思いました。

○濱崎教育長

同じく、学び方の工夫で、教育出版の1年生「音のスケッチ、星座の音をつないで旋律を作ろう」があり、音楽を作りたいという自分なりの考えを引き出すような仕掛けなのかなと思います。音作りは子どもの創造性を発揮しやすいような紙面構成になっているなと思いました。他にございますか。

○足立委員

組織・配列に関してですが、教育出版、教育芸術社ともに英語の歌が掲載されています。教育芸術社は3年生からですが、教育出版では「ショートタイムラーニング」というタイトルで、英語の歌が1年生から掲載されています。若者に人気のK-POPも英語で歌っていることが多いですし、大人が思っている以上に子どもたちは英語がすごく身近になっているのかなと思いました。文法はともかく、音楽を通じて英語に慣れ親しんでいくことは、今後いろんな面で有効に働くと思いました。いわゆる教科横断的な意味合いでも価値があると考えていますし、教育出版の1年生から掲載しているという姿勢は個人的に評価したいなと思う部分です。

○濱崎教育長

ありがとうございます。他にございますか。

○足立委員

引き続いて、補充的な学習・発展的な学習の観点で、教育芸術社は、各学年通じて比較的デジタル教材が多いという印象を受けました。英語の歌にこそデジタル教材があると、先生方は助かると思いました。

○濱崎教育長

音楽であるからこそデジタル教材をどう重ねあっていくのかというのは、重要な課題なのかなと思います。他にございますか。

○富山委員

補充的な学習・発展的な学習の観点で、音楽は世界中に存在しており、一番の始まりは打楽器のようなリズムから始まったと言われていますが、テキストの中には雅楽や琴、尺八を書いています。やはり旋律も当然変わってきますし、このあたりのテキストの表現はすごくいいなと思いました。世界中の音楽がいろいろある中で、どこかに自分にはまる音楽があるという意味で、こういう雅楽や琴、尺八のページというのは非常に秀逸だと思いました。

○濱崎教育長

ありがとうございます。特にリズムが自分ではリズム感がいいのかわかりませんが、どちらかというと苦手と感じている中で、考えてみたら音楽だけでなくリズムはどんな場面でも出てきて、生活中での動きや、スポーツ、話し方などいろんなところでリズムは大切だなと思います。簡単にいいリズムが作れるということは、コツとしてはリラックスしていたり仲間と楽しくしていたり、そんなものがすごく大切なのかなと思いながら、私もリズムの方を見ていました。

教育芸術社では、リズムの学習を常に行うことで、拍子感やリズム感を育成するためだけではなく、友だちと合わせて演奏するアンサンブルや音楽づくりに生かせる発想を得たりする活動に繋げていくということで、その中で先程もリラックスという意味で、ウォーミングアップとして気持ちや身体をほぐして授業に入ることができるような工夫をされています。3年生では授業の最初の3分間を使ってリズム打ち、みんなで仲良くやろうということで「リズムでなかよくなろう」、リズムで心が繋がっていくところや、鍵盤ハーモニカを活用した階名あて遊び、リコーダーを活用したまねっこ遊び等、どんどん遊びを入れていって友達と活動していく、小さな頃のわらべ歌遊びのように学習の中にそういったものを取り入れて自然にリズムよく動ける子をつくっていこうということに好感が持てました。他にございますか。

○原委員

同じく、補充的な学習・発展的な学習について、教育芸術社には、どの学年にも最後の方のページにふりかえりのページがあり、その学年ごとに習った内容のまとめが一目で分かりやすく表記されていました。6年P82、83リコーダーの運指表や音符、記号の一覧もあり、子どもたちが家に帰っても復習しやすいように工夫されているなど感じました。

また、曲のところにヘッドホンマークがあり、QRコードで聴けるようになっているのが良いと思いました。曲ごとに「こころのうた」や「きこう」などのマークもあり、子どもたちにとって分かりやすくなっていると思いました。

○濱崎教育長

ありがとうございました。他に意見はないでしょうか。では、採決をとります。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

教育出版0人、教育芸術社4人

○濱崎教育長

教育芸術社が4名挙手されていますので、採決の結果、音楽は、教育芸術社を採択いたします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○濱崎教育長

それでは、教育芸術社を採択いたします。

続いて、図画工作の教科用図書採択を行います。採択候補図書の特色等について、選定副委員長、簡潔に説明をお願いします。

○寺田選定副委員長

図画工作の採択候補図書2社についての特色等、説明をさせていただきます。

まず開隆堂でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「組織・配列」において特徴が見られます。例えば、全題材のページ右下に「あわせて学ぼう」を掲載し、教科等横断的な取組みについて、どのような取組みができるのか、詳しく示されています。

次に日本文教出版でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「学方の工夫」において特徴が見られます。例えば、児童の個性に合わせて、多様な表現ができるように多くの作品が掲載されています。また、様々な技法が紹介されており、多くの表現の中から児童が自分のしたいものを選べるようになっているので、自分の思いを幅広く表現できるように考慮されています。

このような理由から、選定委員会で推薦されております。

以上です。

○濱崎教育長

それでは、委員の皆さま、審議をお願いします。

図画工作は、見ただけで興味津々の教科書になっていないと困るなどと思います。子どもたち一人一人が自分の思いや考えをもとに、作品を創造して子どもたちが作品を作っていく時間です。活動を通して自分を認め、他者を認め心の成長を含めながらも「こんなことが実現出来たらいいな」という、教科書を見るだけで自分の中に新しいアイデアが生まれてくるような、やってみたいなという気持ちを育む、そういった教科書を選びたいと思います。

○濱崎教育長

目標・内容の取扱いの観点ですが、図画工作科は新しい価値、未来を創造する力を子どもたちの中に育成される教科だと考えています。そういう意味では先程も申しましたが、「作りたい！」という気持ちをどういうふうに引き出していくのかが大きな観点になるのかなと思います。その中で、日本文教出版の1・2年下「まどをあけたら」など、教科書の中にある活動の情景の写真は、子どもの姿や活動中のつぶやきが参考になり、子どもたちの「やりたい！」という制作意欲を紙面から引き出してくれるように思います。また、「こんな発想をしてもいいんだ」「自分ならこ

うする」「私ならこうしたい」という思いも、その紙面から出てくると感じました。

一方、開隆堂は、キャラクターが資質能力に沿って学習のポイントを投げかけています。キャラクターとしては、形や色、方法や材料を知って、工夫する力の「くふうさん」、試したり、見つけたりして、考えたり思いついたりする力の「ひらめきさん」、心を開いて楽しく活動し、友だちと関わり、協力し合う力の「こころさん」を表しています。

1・2年上のひらめきさんは、「かきながら、どんどんゆめをたして、えをたのしくしよう」と呼びかけ、3・4年下は、「ちょうこくとうでいろいろな線をほってみよう」と、彫刻刀の使い方になれ、彫り方やすり方を工夫できるような投げかけをしています。他にございますか。

○足立委員

目標内容の取扱いの観点になりますが、日本文教出版では、協働したり意見交換をしたりする画像で、プロセスを多く掲載しているような印象を受けました。子どもたちの個性を伸ばすという観点では、もちろん完成作品を見て影響されるということもいいとは思いますが、作ったり想像したりする楽しみというものを伝えていた方が効果的なのかなという印象を持ちました。

○濱崎教育長

ありがとうございます。作品に、子どもたち自身に子どもたちのやってみたい！とか引き出したい！というものがどんどんテーマになっていくのかなと思います。他にございますか。

○富山委員

組織・配列の観点で、開隆堂は、2ページの見開きで1テーマが完結しているため、ページをめくっていて非常に見やすいです。特に1・2年生下P41、42「しぜんからのおくりもの」落ち葉を広げている写真が載っています。一方、日本文教出版の5・6年生下P42「自然を感じるすてきな場所で」は、何か落ち葉を使って作品を作っています。これを拝見した時に、花びらで描いた巨大路上アートのイタリアのインフォラータや、新潟の「大地の芸術祭」を思い出しました。芸術というのは、そもそも美しい自然から切り取って人間が作り上げてきたものなので、今一度、SDGs的には自然に戻って自然の中での美しさをどう体験するかというところのこういうページがあっていいかなと思いました。

また、著者数は開隆堂98名、日本文教出版は161名でテキストが作られています。

○濱崎教育長

ありがとうございます。図画工作の学習は、生活や自然の現代的な課題に結びつくというお話をいただきました。他にございますか。

○原委員

同じく組織・配列について、開隆堂と日本文教出版で同じ材料を使った作品、例えば5・6年生上「糸のこと木の板」「ワイヤー」の活動では、どちらもいろいろな完

成作品を載せていて、仕上がりのイメージがつきやすいと思いました。

私は、日本文教出版の方が、子どもたちが実際に作っている様子の写真が多く使われており、制作の工程におけるイメージも付きやすいと感じました。また、工夫した点なども「ふきだし風」にかかれており、作品の特徴をとらえやすくなっていると思いました。

どちらの教科書も、題材ごとの作品を多く載せているのが良いと思いました。

○濱崎教育長

ありがとうございます。他にございますか。

○足立委員

補充的な学習・発展的な学習についてですが、日本文教出版の5・6年生上P12～13やP54～55、開隆堂の5・6年生上P48～49では、アニメーションを作る、プログラミングを利用するなどの記載がありました。タブレット利用を「見る」や「写真や動画を撮る」だけでなく、何か目的をもって使うことに発展させている点は、今後の事も見据えても評価できる部分かなと思いました。

○濱崎教育長

ありがとうございます。他にございますか。

○原委員

私も補充的な学習・発展的な学習についてですが、日本文教出版の全学年の巻末に注目しました。「材料と用具の引き出し」というコーナーがあり、単元ごとに使った用具の使い方や、その他の道具の紹介などもあり、よくまとまっているという印象を受けました。コーナーとして設定しているのがわかりやすく、統一性があると思いました。

○濱崎教育長

学び方の工夫という観点でみると、子どもたちが納得できる作品、よく考えたなと自分なりに納得できた作品を作れたらいいのですが、発想、構想、表現のようになかなかいいアイデアが浮かばない、そのあたりを少し支えてあげるというのもすごく大事なかなと思っています。日本文教出版は、子どもたち一人ひとりが納得できる作品を作るための、発想や構想、表現のヒントを工夫するコーナーが設けられています。例えば、3・4年生下「ひらめきのタネ」、5・6年生上「どう見る・どう見える」、「なんでこのかたち」などを設けて図画工作の見方のコーナーということで好感が持てるかなと思いました。特に発想に悩む児童がいますので、導入や展開などで活用して「いいこと思いついたね」というふうに、何とか発想を広げられる工夫が教科書にあったらいいかなと思います。

さきほど開隆堂で3つのキャラクターが出てきましたね。「くふうさん」「ひらめきさん」「こころさん」で、特に「こころさん」はなぜこんな名前を付けたのかと考えていたのですが、これは学習指導要領の3つの資質能力ですね。「くふうさん」が今まで言われている「知識・技能の観点」、「ひらめきさん」が「思考力・判断力・表現力の観点」、「こころさん」が「学びに向かう力・人間性の涵養」を意識してい

るのかなと思いました。全ての教科に共通の3つの資質と言えるのかなと思いました。他にございますか。

○富山委員

幼少期の工作は子どもらしさや良さが表現されていて、おとなが観ていても心和むものですが、美術館に展示されている過去の名作の良さを子どもにいかに伝えていくかというところで、開隆堂の5・6年下P24、P30「小さな美術館」、日本文教出版の5・6年下P38、P41「教科書美術館」が載っています。こういうものは小さい頃からどれだけ触れて子どもたちに見せていくかというのはすごく大切なことなので、要所要所に入れていただければ、文化発展の始まりになっていくだろうと思います。

○濱崎教育長

どうしても小学校の図画工作は、子どもたちが活発なので作る方に活用が中心になるのですが、鑑賞するということで、小学生なりにじっくり鑑賞できる場面をどうつくるかが一つの課題ですね。他に意見はないでしょうか。では、採決をとります。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

開隆堂0人、日本文教出版4人

○濱崎教育長

日本文教出版が4名挙手されていますので、採決の結果、図画工作は、日本文教出版を採択いたします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○濱崎教育長

それでは、日本文教出版を採択いたします。

続いて、家庭の教科用図書採択を行います。採択候補図書の特色等について、選定副委員長、簡潔に説明をお願いします。

○寺田選定副委員長

家庭の採択候補図書2社についての特色等、説明をさせていただきます。

まず東京書籍でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「発達段階への考慮」において特徴が見られます。例えば、調理実習などの場面で、家庭でも実践しやすいように調理の過程や手順を細かく示し、安全面からも気をつけるべきところがわかりやすく写真を用いて提示されています。

次に開隆堂でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「学び方の工夫」において特徴が見られます。例えば、実践的な活動を通し、話し合いを行ってまとめるといった言語活動を意識した学び方ができる流れになっており、単元の振り返りの際に、「めあて」のチェックをして、体験したことを振り返ることができるように工夫されています。

このような理由から、選定委員会で推薦されております。
以上です。

○濱崎教育長

それでは、委員の皆さま、審議をお願いします。

家庭科の学びは、生活者として本人がどう自立していくかという、本人の成長を学びの中で求められていく教科です。なかなか自立を促す教科は珍しいと思いますが、子どもたちの生活の自立に向けて、体験や実践を通して、生活を工夫し、自分のできることを増やし、よりよい家庭生活につながるができる、そんな力、自立する力をどう育むかということを目指しています。一方、家族や地域の人と協力して生活を創りあげていく力も大事な視点で、そんな中で社会科でもありました持続可能な社会の創り手になっていくということで、誰もが暮らしやすい社会とはどんな社会なのかなということまで考えられるような深い学習ができればなと思っています。また、そんな教科書を選びたいなと思います。

そういった意味で、学び方の工夫として先ほども申しましたが、5年生で初めて家庭科に出合います。料理や裁縫など技術を学ぶような教科かなと思いがちですが、どんな勉強をするのかなというのは最初の出合いがすごく大事だと思います。

開隆堂は、最初の見開きのページに家庭科の見方・考え方を広げて、さらに成長しようというめあてと、自分の誕生から中学までの時間軸の広がり、家庭地域社会へと広がる空間軸が現れてあって、2年間を通して学習の流れを易しいものから難しいものへと進めますというガイダンスが見やすくなっています。4人のキャラクターも時間軸の中で成長していく様子がイメージしやすいものになっています。家庭科は学びを自分の実生活に生かして、新たな課題に気づいて、自分の成長する過程をすごく大事にする教科です。生活に関わる見方考え方を4つのクローバーで表現していて、題材の初めに、その単元で身につく見方・考え方が上手に示されています。途中のページには、見方・考え方を書かれたクローバーをもったキャラクターも登場していて、気づきの意識がされています。大切なことは4つの視点ですが、これを覚えながら確実に意識しながら授業が進んでいくところで、どんな視点かという、「協力と助け合うこと」「健康で快適で安全な生活をする」「人々の生活や文化の大切さに気付くこと」「持続可能な社会を目指す」この4つを小学5年生なりに意識しながら実践的・体験的な学習を行うことが家庭科の大前提になっています。

それとともに、実技を伴う教科ですので安全な学習も大前提です。安全性ということで言えば、調理や制作実習の手順など、安全、安心して学ぶために全体の流れが見やすいように、流れが「わかる・見える・迷わない」など横流れ式の実習手順のページを上手に示して安全の徹底を図っているなと思います。また、教科書の随所に安全マークを示して、「ここでは安全に気を付けてください」ということを示しています。そういう意味で、安全と衛生に気を付けて実習しましょうという特設ページも設けて、さらに徹底しているということです。

もう一つは命にかかわることです。特に食物アレルギーについてしっかりと関心を持って自分の身の回りの人への被害も当然防ぐことができるよう知識や対応ができるようにということで、最初の調理実習の安全マークのコーナーでは、食物アレルギーと加工食品との関わりとして、ほうれん草とジャガイモにふれています。特にジャガイモの有害性を示し、食物アレルギーに取り組んでいる人のキャリアイン

タビューも聞きながら徹底した安全意識を工夫されています。家庭科自身が、自分が自立するという事に関わる教科であるということ言えば、キャリア教育もものすごく大事で、職業に繋がっていくようなお話になりますので、衣食住の生活とか、消費生活、環境、地域学習の内容と密接につながるような職業や、取り組みをしている方のキャリアインタビューも20名くらい多数掲載されていて、その中にキャリアでつなぐ持続可能な社会というテーマでこれもキャリアインタビューの特設ページで8名くらいおられました。メッセージを送られて、これからの社会を持続可能なものに繋いでいく4つの最後の目標のところを、いろんな人に語り掛けさせて重要性を分からせていくというような工夫が開隆堂では示されていました。他にございますか。

○富山委員

学び方の工夫の観点について、両方ともよくできています。現代の多様な家庭環境の中で、子ども達が自分で何かをすることができるという力や習慣をつけてもらうために、学習内容について、自分たちのこととして考え、いかに楽しく取り組めるか、いかに何かできたときに周りの人間からほめてもらえるような環境をどう作っていくのかは大事だと思います。

今年は非常に猛暑で沸騰化の地球に対して、このテキストは何が書かれているのかというところで、例えば、東京書籍P100「夏の生活を工夫しよう」で、グリーンカーテンになる植物、へちま、にがうり、朝顔が書かれていて、理科の6年生とも関わりを書いてくれています。一方、開隆堂P105「涼しい住まい方で快適に」では結構詳しく書いてあり、グリーンカーテンを利用した時にどれだけ熱を遮れるかというのもサーモグラフィーで載せています。この暑さは異常を乗り越えているので、それぞれの工夫をしていかないと乗り越えられない状況です。昔の人はかめを置いて雨水を溜めて、夕方に水まきをして、地球を冷していました。それを私たちは今はしないでエアコンの室外機で熱を出すため、ヒートアイランド現象を伴い暑くなっている。今一度、どうすれば涼しくなるのかというのも、こういうところで子ども達にきっちり伝えていけたらと思います。

○濱崎教育長

ありがとうございます。他にございますか。

○原委員

組織・配列についてですが、開隆堂のほうが全体的に東京書籍と比べて写真の量が多く、单元ごとに写真を使って細かくわかりやすく書かれており、この家庭科の教科書1冊で何でも調べられるような配列、内容になっています。また料理のレシピも細かく書かれており、ソーイングについてもとても細かくたくさん書かれていて、実際につくる際の参考にとてもしやすいと思います。パッと見たページ毎の構成も、見開きページで左から右へ展開されており、イメージがしやすいです。

家庭の仕事のページでは、「家事は女性がする」という従来からあるイメージを払拭させるような、男性が率先して家事をしている姿、イラストが多用されているところも現代の多様な価値観への配慮がなされていると感じました。

○濱崎教育長

他にございますか。

○足立委員

同じく組織・配列という観点において、開隆堂の目次を見ていただくとすごくわかりやすいと思いますが、5年生では「生活を見つめ、できることを増やしていこう」というタイトルの通り、日常生活をベースにしているような内容が多いと思いました。それに対して6年生では、発展的な感じかと思いますが、「工夫して正確に生きていこう」というくくりになっていて、社会との繋がりといいますか関わりのあるところを学んでいく内容になっていて、5年生から6年生にかけて段階的に学んでいこうという配列になっている点に関して、子ども達にとっては理解しやすいような流れになってるのかなと思いました。例えば、5年生では「団らん」という内容に対して6年生では「地域での生活」、さらに5年生では「消費生活」に対して、6年生では「SDGs」といった具合の発展のさせ方かなと思いました。

○濱崎教育長

ありがとうございました。他にございますか。

○原委員

発達段階の考慮の観点から、今までの教科書でもたくさん取り上げられている内容ですが、SDGsについては、開隆堂のほうがより多く取り扱っていると思いました。例えば四つ葉のクローバーマークを使って、単元の中でSDGsのどのゴールにあてはまるかが一目でわかりやすく示されています。

同じく開隆堂には、P138、139で、実際に社会のいろいろな場面で活躍されている方々のキャリアインタビューが豊富に掲載されており、児童が学習内容について具体的にイメージして考えることができるような工夫がなされていると感じました。

○濱崎教育長

ありがとうございます。他にございますか。

○足立委員

補充的な学習・発展的な学習の観点で、開隆堂、東京書籍ともに、QRコードに関しては、質、量ともに充実している印象を受けました。

○濱崎教育長

他にございますか。

○富山委員

同じく補充的な学習・発展的な学習についてですが、東京書籍P134「生活をかえるチャンス③」では生活を変えていこうという前向きな方向性が書かれています。開隆堂P132「持続可能な社会のために」では、表現は違いますが自分たちの生き方を変えていこうというところでは同じだと思います。先程教育長がじゃがい

ものをおっしゃっていましたが、開隆堂はP15に緑色のじゃがいもの写真を載せています。東京書籍は文章で、芽や緑色には有害なものが含まれているから取り除くとあります。原委員もおっしゃっていたように写真が多い方がわかりやすいと思います。

○濱崎教育長

ありがとうございます。他にございますか。最初の方で長く話していたので、途中で切りましたが、もう一方、同じ学びの工夫ということで、東京書籍は、本当に資質能力を育てる授業づくりということにすごく力を入れておられて、うまく組み立てられているなと思います。例えば、じゃがいものことですが、家庭科の勉強は普通料理のレシピがあって、その通りに作りましょうという単純な実習のイメージがありますが、美味しく作れたらそれで終わりではありませんよということです。どうしてそんな手順をするのかとか、どうしてこんな切り方をするのかとか、しっかりと考えることが大切で、そこが学習なんです。「ゆでる調理でおいしさ発見」のなかでは、考える調理実習に取り組んでおられます。例えば、じゃがいもは生で食べられないという疑問から入って、ゆでると食品としてどんな変化が起こるのか、どんな良い点があるのか、美味しさが得られるのか、なぜそうなるのか、切る大きさやゆでる時間はどれくらいか、といった実験的に調理を進められる工夫をされているなと思いました。それとともに、自立ということで、学ぶことによって自信を深めていくというところ言えば、手縫いができるようになるとか、調理ができるようになるなどの経験を通して、自分の生活や生活感が変わって自立心や自己肯定感が高まるころと言えば、巻頭の成長の記録に記入することによって、また、学年を通したポートフォリオの成長実感等、記録によって自信に繋げるような工夫がされています。それから、自立的な生活を積極的に促していくという意味では、生活を変えるチャンスというコーナーを設けて、自立的に取り組みやすい長期休業中にテーマを設定して、家庭や地域の生活の関する課題を自分で見つけてチャレンジさせていくということで、毎日の生活で、生活をよりよく変えるチャンスはいくらでもありますよと呼びかけながら、例示として、「我が家のニコエコプラン」で年末の大掃除計画を立てるよう促したりしながら自分たちで生活自立を目指す。子ども自身が、自分が変わっていくんだという主人公になるような学びも追求できるよという意味で、この最後が家庭科の一番大きな目標だと思います。そういう意味で資質能力、授業づくりということで東京書籍は優れているなと感じました。他に意見はないでしょうか。では、採決をとります。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

東京書籍0人、開隆堂4人

○濱崎教育長

開隆堂が4名挙手されていますので、採決の結果、家庭は、開隆堂を採択いたします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○濱崎教育長

それでは、開隆堂を採択いたします。

～休憩～

～再開～

○濱崎教育長

続いて、保健の教科用図書採択を行います。採択候補図書の特色等について、選定副委員長、簡潔に説明をお願いします。

○寺田選定副委員長

保健の採択候補図書6社についての特色等、説明をさせていただきます。

まず東京書籍でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「目標・内容の取扱い」において特徴が見られます。例えば、身近な生活の中から学習の課題を見つけ、解決に向けて考えたことを表現できる内容を豊富に取り上げ、詳しく考えさせる活動を設定しています。

このような理由から、選定委員会で推薦されております。

次に大日本図書でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「学び方の工夫」において特徴が見られます。例えば、単元のはじめに課題を示し、「つかもう」「考えよう」「話し合おう」「調べよう」「活かそう」という学習過程の中で、児童自身が自分のこととして課題を解決する学習活動が取り上げられています。

次に大修館書店でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「目標・内容の取扱い」「補充的な学習・発展的な学習」において特徴が見られます。例えば、身近な生活における健康・安全の知識・技能について、写真・挿絵などの資料が効果的に掲載されており、適切な内容が取り上げられています。

このような理由から、選定委員会で推薦されております。

次に文教社でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「補充的な学習・発展的な学習」において特徴が見られます。例えば、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを生活に生かしたりすることができるよう配慮されており、「もっと考えよう課（はってん）」なども含め、発展的な学習につながる多様な資料が豊富に掲載されています。

次に光文書院でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「目標・内容の取扱い」「補充的な学習・発展的な学習」において特徴が見られます。例えば、学んだことを生活に生かしたりすることができるよう配慮されており、保護者へのメッセージとして保健を学習する意義や家庭での活用も呼びかけています。

このような理由から、選定委員会で推薦されております。

最後に学研でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に、「補充的な学習・発展的な学習」において特徴が見られます。例えば、学んだことを生活に生かしたりすることができるよう配慮されており、心肺蘇生法やAEDなど発展的な学習内容にも詳しく触れており、中学校の学習ともつなげています。

以上です。

○濱崎教育長

それでは、委員の皆さま、審議をお願いします。

テーマが「命」なんですね。生きる事、幸福、それらを考えて主体者をどう育てていくのかということ、身体や心が出てきます。子どもたちが、生涯にわたって、健康安全で幸福に生きることは、私たちの願いです。健康とは、かけがえのないものであることを理解するとともに、自分の健康についての課題を人に言われるのではなく自分事として考え、命や健康を守るための正しい知識と予防スキルが身につく教科書を選びたいと思います。家庭科の時も自立ということが自分事として自立していくということでしたが、保健も自分をどうするかというのが大きな課題だと思います。何かございますか。

○原委員

目標・内容の取扱いという観点について、東京書籍は①気づく、見つける②調べる、解決する③深める、伝える④まとめる、生かすという4ステップで単元の学習の進め方を統一しており、学習の流れがとてもわかりやすいなと思いました。

また、書き込んで自分の意見を考えさせるところが多くあり、それらを使って交流する場面を持たせることで、個人のいろいろな考え方があっても学んでいけるような工夫になっていると思います。

さらに、写真とイラストの割合もちょうどよい印象を受けました。

○濱崎教育長

ありがとうございます。今、学習の流れについてお話がありましたが、その観点から言いますと、大修館では、各学年の冒頭で、保健の学び方を丁寧に説明されています。ステップ1→ステップ2→ステップ3で学習を進めていくことで、主体的→対話的→深い学びにつなげるように工夫されていると思います。

また、主体的な学びをスタートさせる各題材のとびら（単元のはじまり）で、著名人とキャラクターが対話形式で保健学習への興味を高める工夫がされており、導入としてたいへん興味深いなと思いました。

東京書籍は、原委員のお話のとおりで、子どもが健康についての課題を先程も言いましたキーワードの「自分事」として捉え、主体的に学習できるよう、各項を健康への4ステップで構成しています。ステップ1で実生活の身近な場面や印象的な資料を提示して、子ども自身で課題に気付かせることでステップ2や3の課題解決への意欲づけにつながるよう工夫がされています。

文教社は、本時のタイトルの下に、“ちょこっと思うこと”という面白い表現で、より共感できる内容のふきだしをしている工夫が見られます。また、「ここが大事」というところでは、学習の内容や知識の習得を先生のキャラクターのふきだしで促しています。次へのミッションへのつなぎとして、「ちょっと待った」という一度立ち止まらせて、思考を子どもに促し、紙面の下段で「つぶやきくん」がちょっとした豆知識や、あなたへのメッセージをつぶやいているなど、表現も面白いですが子どもの意識の流れを大切にしたい工夫が見られました。

組織・配列の観点で、東京書籍は、大切な命や健康を守るため、子どもに身に付けてほしい技能スキルも必要な課題であると認識しています。それらを扱う箇所

「スキルマーク」をつけて、見やすいようにしているところが工夫していると思いました。他にございますか。

○富山委員

発達段階への考慮という観点について、一番着目したのが病気の予防で、けがや事故は仕方がないですが、病気の予防は、予防すれば起こらないのではないかと考えています。何よりも青少年にとって、薬物、たばこ、飲酒が一番の悪影響を及ぼすと思います。どれだけ生々しい写真が掲載されているか注目して見ていました。シンナーをして歯がボロボロの姿、タバコを吸いすぎてボロボロの肺、お酒を飲みすぎてスカスカになった脳など。実際アメリカに昔いた時にたばこを吸っていたのですが、アメリカのたばこのパッケージに、本当におどろおどろしい肺がんになったような肺がパッケージに印刷されており、あなたはこの煙草を吸っているとこのように肺がんになりますよ、と書かれていました。やはり、それを見ると吸いにくかったです。それでも若いときはタバコがやめられず、なぜタバコがやめられないのかという本を3冊ほど読み理解してもやめられませんでした。とうとう十何年前にお酒を断つかタバコを断つかという時にタバコを禁煙外来にいったやめました。こんなバカなことを絶対若い子供たちにしてほしくないという思いがあって、僕の経験からは少し怖い映像をどれだけ数多く見せられるがというところがテーマと思っています。実際、それぞれ小さいですが写真を載せていただいているので、これは抑止力になるのかと思います。

○濱崎教育長

いつも薬物に関わっては写真がリアルかどうかというのが議論になっています。効果的な抑止の教材・資料として、いいものが掲載されるといいなと思います。他にございますか。

○原委員

私も発達段階への考慮という観点についてです。思春期の身体の変化について、東京書籍は小1、小6、大人、と三段階で写真を載せています。保健を勉強する中学年～高学年において、自分たちと年齢の近い子どもの写真を載せることでよりリアリティもあり、自分事として捉える参考になると思いました。

また、成長の早い子、遅い子と個人差がでてくる年齢なので、インタビュー形式でいつ頃どのような変化が起きてきたかを具体的に載せてあるので、心の変化とともに学ぶことができるのではないかと思います。

さらに、高学年の心の健康の学習の章では、書き込み箇所が豊富に用意されており、自分の考えや気づきを深めながら学べるよう考慮された内容になっていると思いました。

オリンピックやパラリンピックなどで活躍されたアスリートの方々のインタビュー記事や写真を載せることで、大きな舞台で緊張したり些細なことで悩んだり心配することへの抵抗感も和らげてくれる効果があると思いました。

○濱崎教育長

ありがとうございます。他にございますか。

○足立委員

はじめに、教科書の内容とは少し離れますが、各社の裏表紙に記載されている著作関係者の人数についてしてみると、東京書籍は他と比べて非常に多いなという印象を受けました。私自身、保健は生活を営む上で必要不可欠な知識を扱う教科であるので、質の高さは維持してほしいと考えている教科の1つです。著作関係者が多いということは、出版社が力を入れているということにつながるのかなと捉えています。

補充的な学習・発展的な学習という観点についてですが、東京書籍、大修館ともにQRコードが多く掲載されており、いずれも動画などを含めたデジタルコンテンツが豊富に用意されていると思いました。大修館は、各時間の終わりに学習を振り返ることができるクイズが用意されているのが面白いなと思いました。

○濱崎教育長

ありがとうございます。私の方からも補充的な学習・発展的な学習ということで冒頭でも述べましたが、そういったことは子どもの心に響くのかなというところで、一点目が、健康とはかけがえのないものだという、健康な人にはなかなかわからない感性と、これから未来を生きていく子ども達は、今から自分たちが健康の事を自分事としてどう考えていくのかということで「自分事」というテーマ、これに対して、今からできる事について見通しをもって、子どもがどう学習していくのかということのを促しているような教科書を選びたいです。

まず、大修館書店は、巻頭のイラストや写真で「生活の中の保健をさがそう」ということで、保健学習への興味関心を高める工夫が上手になされていると思います。3年生の初めに「なぜ保健を学ぶのか」の題材は、直接的なテーマですが、保健を学ぶ意義をこの頃流行りの漫画でわかりやすく理解させる工夫をしていると思いました。

光文書院は、「何のために保健を学習するのか」をテーマにした読み物を通して、子どもたち自身が保健の学習や意義に気づき意欲的に取り組めるよう、著名人が語る「わたしと健康」を語っていただいているということで工夫されているなと思います。他にございますか。

○富山委員

薬物もそうですが、エイズに関することがそれぞれ書かれて表現されています。「レッドリボン」といって、エイズに関して偏らない考え方を持ちましょうというのがあります。ちょうど40年くらい前にハワイ大学の時に、友人がエイズのためプールを拒否したことがあり、何もわからず怖かったのですが、今は全てわかっています。握手も大丈夫、プールも大丈夫、食べ物や咳くしゃみも大丈夫と保健の教科書にはすごく丁寧に書いてくださっているのですが、どこからウイルスが入ってくるかという表現が、東京書籍だけ「血液や精液」と表記されていました。ほとんどの他の書籍は「傷口からH I Vが入ってくる」という、やわらかい表現をされているので、そういう意味では生々しいしいですが、血液がついてこちら側もケガをしていたらうつりますというところもきちんと記載されている方がいいかなと思いました。そういう意味では、東京書籍は唯一「血液や精液」と書かれているのでし

っかりされているなと思いました。

○濱崎教育長

他にございますか。

○足立委員

人権の取扱いという観点で、どの出版社についても登場する人物のイラストなどについては、性別や役割に偏りがなく、掲載内容にも配慮がなされていると感じました。東京書籍は、3・4年生、5・6年生の表紙を見ていただくとわかりますが、ともに車いすにのった子どもや外国にルーツがある子どもなど、内容にもキャラクターとして登場していますし、より表現方法に多様性を持たせているなど感じました。

○濱崎教育長

他に意見はないでしょうか。では、採決をとります。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

東京書籍 3 人、大日本図書 0 人、大修館書店 1 人、
文教社 0 人、光文書院 0 人、学研 0 人

○濱崎教育長

東京書籍が 3 名、大修館書店が 1 名挙手されていますので、採決の結果、保健は、東京書籍を採択いたします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○濱崎教育長

それでは、東京書籍を採択いたします。

続いて、英語の教科用図書採択を行います。採択候補図書の特色等について、選定副委員長、簡潔に説明をお願いします。

○寺田選定副委員長

英語の採択候補図書 6 社についての特色等、説明をさせていただきます。

まず東京書籍でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「人権の取扱い」において特徴が見られます。例えば、練習用のなぞる文字が小さい矢印で示されており、書き順が分かるように工夫されています。

このような理由から、選定委員会で推薦されております。

次に開隆堂でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「人権の取扱い」、「発達段階への考慮」において特徴が見られます。例えば、目次に單元ごとのゴールが明示されており、小ゴールもありスモールステップで学習しやすいように構成されています。

このような理由から、選定委員会で推薦されております。

また、アルファベットの書き初めの点があり、左利き・右利きどちらでも書きやすいように配慮されています。

次に三省堂でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「発達段階への考慮」、「組織・配列」において特徴が見られます。例えば、教科書を用いたときに入ってくる情報量が、ほどよく学習しやすいように配慮されています。また、目次に單元ごとのゴールが明示されており、小ゴールもありスモールステップで学習しやすいように構成されています。

このような理由から、選定委員会で推薦されております。

次に教育出版でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「組織・配列」において特徴が見られます。例えば、教科書を開いたときに入ってくる情報量が程よく、学習しやすいように配慮されています。

次に光村図書でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「発達段階への考慮」において特徴が見られます。例えば、目次に單元ごとのゴールが明示されており、小ゴールもありスモールステップで学習しやすいように構成されています。

最後に啓林館でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「人権の取扱い」において特徴が見られます。例えば、ユニバーサルデザインフォントを使用しており、見やすいように配慮されています。

以上です。

○濱崎教育長

それでは、委員の皆さま、審議をお願いします。

英語の教科書を一言で言ってテーマは世界です。英語を小学校5年生でどんどん学ぶことによって、否応なしに子ども達が世界をどんどん意識していく、そんなイメージがあればいいと思います。グローバル化やデジタル化の進展に伴い、世界に出ていかななくても英語を学習する重要性がすごく高まってきました。教科書のタイトルを見てみますと、世界へつながる扉、世界を切り拓く、未来を拓く力等のテーマが各教科書会社の扉にも描かれていて、正に、英語を用いたコミュニケーション能力の基礎を育成するだけでなく、英語が喋れるということだけでなく、他者との思いを伝えあう喜びや、世界の文化を理解する楽しさを実感する教科書を選びたいと思います。

目標・内容の取扱いについて、開隆堂は各単元見開きに、単元で身につけたい力を GOAL とし、めあてもしっかりと書かれており、見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されています。

三省堂は HOP で自らのゴールを設定し、そのゴールに向かって主体的に学習を進めていけるようにしています。HOP で今自分の力で、できる、できないを確かめ、STEP、JUMP を通じてどんなことがいいのか My GOAL を決めます。これは多様性を意識しての表現かなと思います。ユニットやレッスン、パートごとの GOAL が明確なので、ユニットの最後にどんなことができるか、見通しをもって取り組むことができると思います。他にございますか。

○原委員

同じく目標・内容の取扱いですが、開隆堂は最初のページでその学年で習うこと

や、5年生では3・4年生からの移行について、写真からどのようなことを学習していくのかを最初に定義づけていて、教科書の使い方も具体的に示されているのがよいと思いました。

○濱崎教育長

他にございますか。

○富山委員

組織・配列に観点について、「読むこと」「書くこと」に取り組んでいくうえで、児童の意欲を高める構成について、書いて覚えられる人と見て覚えられる人の2つに分かれると思います。書き込むスペースがどれだけ多いか少ないかに注目してみました。東京書籍は、なぞる順や書き順まであって充実していました。開隆堂も充実していました。三省堂は、少し少ないイメージがあります。教育出版は、最後の6年のワークシートが充実していました。光村図書と啓林館は、少し少ないと感じました。

○濱崎教育長

話す・聞く・書くで言うと、書くが一番難しいというところで、その配慮がどうしていくのが課題だと思います。他にございますか。

○足立委員

組織・配列の観点で、開隆堂には巻末に CAN-DO チェック表があり、使用することで進行具合を視覚的に把握でき、モチベーションアップに繋がると感じました。

○濱崎教育長

ありがとうございます。足立委員から CAN-DO チェックのお話がありました。自己評価がテーマになるのかなと思います。そういう意味で、子どもと共有できる CAN-DO リスト、指導と評価の一体の側面から CAN-DO リストで子どもと教師が目標を共有することが英語の授業の中ですごく大切だと思います。

東京書籍は、My Picture Dictionary の中に CAN-DO の樹で示しています。イラストは小学校中学年から中学校への学習の流れをイメージして描かれています。

開隆堂は、子どもの頑張りを記録できるように巻末に CAN-DO リストがあります。主体的に外国語を学び続ける意欲を育むためには、自分自身で成長や課題を確かめる力の育成が不可欠ということで、自己評価を記録し、できるようになったことや、これから頑張りたいことをしっかりと確かめることができる仕組みになっています。

教育出版は、Let's Look at the World「世界のいろいろな学校を見てみよう」や、World of Smiles では海外に暮らす同年代の子どものリアルな声と学校生活などを素材として盛り込んだコーナーがあり、世界を身近に感じるとともに、違いだけでなく共通点も感じるように工夫されています。イラストも多様性を尊重していて、これからの日本の社会に必要な視点を書かれているのかなと思いました。他にございますか。

○富山委員

英語を学ぶ前に、世界の文化や慣習について興味を抱かせることが大切だと思うので、そのあたりも着目してテキストを見てみました。

東京書籍は、しっかり書かれていました。開隆堂は6年P110に世界で活躍している人が秀逸でした。三省堂は世界のまつりが書かれていました。教育出版は、名所・名物が書かれており、光村図書は、エクアドルの民話が書かれていました。啓林館は、いろいろな国の事が書かれていました。

勉強させるのではなく、いかに世界にはこんないろいろなものがあるというのをどう上手く見せてあげるのかがテーマかなと思っています。

○濱崎教育長

外国語を学ぶ動機というのが、異文化に興味を持って、あれは何かと思うようなところから、その国の言葉を学んでいこうという繋がりになっていくというお話でした。他にございますか。

○原委員

同じく学びの工夫について、開隆堂は、まず見て考えて、それぞれ実践したあと、アウトプットとして書き込んだりする問題があり、学習の流れとして良いと思いました。

また、3単元毎くらいに「先生と話をしよう」というコーナーがあり、そこで振り返りや自分の考えていることを伝える場面が作られています。6年生では自分で紹介する活動や伝えあう活動、発表を中心に組まれている単元が多く、先生からの一方的な読み書きだけの学習ではなく、コミュニケーションをとれるものを中心にあって良いと思いました。

○濱崎教育長

ありがとうございました。補充的な学習・発展的な学習ということで、英語が話せるということの中で、英語の音、これにどう慣れ親しむのかというところでQRコードが活躍してくると思います。

開隆堂は、児童が英語の音に慣れ親しむ機会を増やすためのデジタルコンテンツが豊富にあると思います。教科書紙面に出てくるキャラクターが実際に英語でやり取りするアニメーションを用意しています。より豊かな表現で言語活動を行うことができる土台づくりとなるフラッシュカード機能や、英語のリズムやイントネーションを歌や動画で楽しく学習できる工夫があります。

啓林館は、「Did You know?」の拡大版として「Did You know??プラス」で、外国の文化やSDGsに関連する取り組みを紹介しています。QRコード「わくわくSDGs」は啓林館得意の算数・生活・理科の教科横断的学習ができるように工夫されています。他にございますか。

○足立委員

補充的な学習・発展的な学習におけるQRコードについて、開隆堂が一番分かりやすく感じました。紙面上もQRで音声や映像とリンクする箇所が1つ1つ記載されており配慮が感じられました。余談になりますが、7月下旬に2週間ほどアメリカの高校生の受け入れをしていました。ネイティブの発音が違いすぎて、単純な単

語さえ聞き取るのにすごく苦勞しました。英語耳を作るうえでは、やはりネイティブの音声をどれだけ聞けるのかということがリスニング力に繋がると思いましたので、是非活用していただきたいと思った部分と、あと、可能であれば、音声の速さを調整できる機能がついていたら、個人差というところもカバーできてより良いのかなと思いました。また、開隆堂は5・6年生に分けて「Word Book」があるのも良いと思いました。

○濱崎教育長

なかなか英語耳になっていない者にとっては、なかなか聞き取れず、もう少しゆっくり喋ってほしいと思うこともありますので、それがQRコードの中で上手く調整出来たらいいのかなと思います。他にございますか。

○原委員

補充的な学習・発展的な学習について、開隆堂には5・6年それぞれに「Word Book」が付いていていいなと思いました。5・6年の教科書の右下には、Word Book が出てくる単語のページも分かりやすく示されています。また、発音も確認できるので良いと思いました。巻末に、振り返りとしてアルファベットの記入問題集的なものがあるのも良いと思いました。

○濱崎教育長

ありがとうございます。他にございますか。

○足立委員

人権の取扱いに関して、三省堂はシンプルな紙面構成で見やすい印象を受けましたが、内容面でのボリューム不足かなという印象は受けました。

東京書籍はイラストなどの色合いに淡色系を多く採用しており、なお且つイラストの線が細いので、優しい見やすい印象があるかなと思いました。

開隆堂は比較的色のメリハリがはっきりしていて、イラストの線も太めなので、はっきりしていて認識しやすい印象を持ちました。

○濱崎教育長

ありがとうございます。発達段階への考慮ということで、さきほど富山委員から書く話が少し出ていましたが、これから中学校で小学校からあがってどう繋がっていくのかを考えていくと、小学校で学んだ英語を中学校でどうつなぐかという大切な観点が文字指導ということで、中学との接続で工夫するところかなと思います。文字の名前や形、音などの学習はすごく重要です。東京書籍の各単元末にある Sounds and Letters の活動では、文字の名前から音、文の順にスモールステップで無理なく学習する工夫がされていると思います。

また、文字の学習が始まると子ども達の学習意欲が低下するとの懸念の声が聞かれます。開隆堂の5年生では、各単元4回、5分程度の帯活動として Sounds and Letters のコーナーで、アルファベットの大文字、小文字を1年間かけてじっくり学習できるように、つまずきやすい文字学習をスモールステップで丁寧に行うことができるような配慮がなされているのが工夫かなと感じています。

他に意見はないでしょうか。では、採決をとります。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

東京書籍 1 人、開隆堂 3 人、三省堂 0 人、
教育出版 0 人、光村図書 0 人、啓林館 0 人

○濱崎教育長

東京書籍が 1 名、開隆堂が 3 名挙手されていますので、採決の結果、英語は、開隆堂を採択いたします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○濱崎教育長

それでは、開隆堂を採択いたします。

続いて、道徳の教科用図書採択を行います。採択候補図書の特色等について、選定副委員長、簡潔に説明をお願いします。

○寺田選定副委員長

道徳の採択候補図書 6 社についての特色等、説明をさせていただきます。

まず東京書籍でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「発達段階への考慮」、「人権の取扱い」において特徴が見られます。例えば、全学年で「安心・安全」「情報モラル」「いじめ（いじめの防止）」「いのち（生命尊重）」「じぶん（自己肯定感）」の 5 つのユニットを編成し、とりわけ、ネットにかかわるいじめや偏見など現代的課題については「いじめ防止対策基本法」の記述とともに積極的に取り上げられています。

このような理由から、選定委員会で推薦されております。

次に教育出版でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「人権の取扱い」において特徴が見られます。例えば、ユニバーサルデザイン、多様性への配慮から、ジェンダーや LGBTQ や様々な家庭のあり方へ理解が深められるように文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われています。

次に光村図書でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「発達段階への考慮」「学び方の工夫」において特徴が見られます。例えば、低学年では動物を登場人物とするなどイラストや写真を中心とした教材、中学年では対話から生まれる気づきを大切にした教材、高学年では悩みながら行動する人の姿などの教材を取り扱い、子どもが主体的に考えられるよう工夫が見られます。

このような理由から、選定委員会で推薦されております。

次に日本文教出版でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「発達段階への考慮」、「組織・配列」において特徴が見られます。例えば、学年ごとに提示する題材内容の文章量やイラストなどが調節され、例えば「いじめの防止」に関する内容では、全学年で複数の教材をユニット化し、集中的に展開できるよう配慮されています。

このような理由から、選定委員会で推薦されております。

次に光文書院でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「学び方の工夫」において特徴が見られます。例えば、巻末にある「学びの足あと」というページでは、児童が教材ごとに学習記録を積み重ねることで、これからの課題や目標を見つけることができるように工夫されています。

最後に学研でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「補充的な学習・発展的な学習」において特徴が見られます。例えば、「深めよう」で問題解決的な学習活動を取り入れ、「心のパスポート」では、教材の関連情報を示すことで、学習事項を更に深めたり、これからの思いや課題について考えたりすることができるように工夫されています。

以上です。

○濱崎教育長

それでは、委員の皆さま、審議をお願いします。

道徳は、子どもたちの心を育てる、特別の教科です。心はどのように育つのかというところが視点になってくるのかなと思います。そこで今いわれているのは、考え・議論する道徳ということで、「どうしてそうしたの?」「なぜ、そう言ったんだろう?」「自分だったら、どうするかな?」と考えて、話して聞いて、また考える、そんな繰り返しの学習活動が求められているということ踏まえると、教科書として、子どもたちが「考えたくなる」「話し合いたくなる」、子どもの心が育つ多様な教材が用意された教科書を選びたいと思います。

目標・内容の取扱いについて、日本文教出版は、テーマに「自己肯定感」を掲げているいろいろな工夫がされています。自己肯定感を簡単にいうと、自分が好きになって、周りの人も大切にするとという心情・心の育ちだと思います。「自分を、まわりの人を大切にする」いわゆる自己肯定感に関わって、「個性の伸長」や「感謝」の項目をたいへん重視されています。例えば、6年「貝塚博士」で個性の伸長・自分らしさ、2年「ハッピー・バースデー」、3年「王様のサンドイッチ」という作品で感謝・ありがとうということを扱っています。

同じ観点で、光文書院は、自己肯定感を高められるように、例えば、5年「四本の木」を学習し、そのコラム「立ち直り曲線」という表現で自分の心の力を考えようとし、全学年に「へこんでも立ち直るレジリエンス」のコラムを設け、子ども自身が自分の「心の力」について考えられるような工夫があって面白いなと思いました。何かございますか。

○足立委員

目標・内容の取扱いについて、光村図書は、イラストや手書き風フォントなどを取り入れ、手作り感という言葉に表されるように、本としての温かみとか、人に寄り添う感覚が優れているという印象を受けました。道徳という教科には相応しいまとめ方であると思いましたし、個人的には好感を持っています。また出版社としての個性やメッセージを強く感じました。

○濱崎教育長

他にございますか。

○富山委員

同じく目標・内容の取扱いについて、東京書籍6年生「世界遺産 白神山地」がとても心に残っています。おそらく20年前ぐらいに旅行で訪れたことがあるが、ゴミが一つも落ちておらず美しかった覚えがあります。ここが世界遺産になって、観光客が増えたことで汚れてしまったが皆で守るようにしたと書かれていて、衝撃を受けました。私たちも世界遺産にやっとたどり着いて、掃除しているのかといわれると疑問に感じるところですが、道徳というものは心を育てていくことだと思いますが、世界遺産一つにしても身近にあるものと遠い憧れで、子どもたちの心を動かすことができるんじゃないかというところで、そういう意味で東京書籍がとても心に残っています。

○濱崎教育長

心を育てる前に心が動くなんですね。他にございますか。

○原委員

「学び方の工夫」についてですが、表紙について見てみますと、日本文教出版は各学年に対応する子どもの写真を使っていて、リアリティがあります。6年生の表紙については、タブレットPCを用いた学習風景が取り上げられており、今の時代に合ったものとなっていますので、教科書を並べて見た時に学年を通したどのような学びをするのかというイメージができます。一方、高学年の子どもたちにとっては、東京書籍の5・6年の表紙のような大人っぽいアニメ的なイラストが好まれるかもしれません。

同じく日本文教出版は、教科書と並行して、全学年に「道徳ノート」があるのがよいと思います。プリントだとバラバラになって子どもたちも保管しにくいと思いますが、専用のノートがあることで、学習の記録をまとめて見返すこともでき、工夫されていると思いました。また、「心のベンチ」というコーナーが単元の合間にいくつか設けられており、身近な問題を意識して考える内容となっていて、ページの右下の部分に、他の教科との関連も書かれていてとてもわかりやすいと思いました。

○濱崎教育長

ありがとうございます。他にございますか。

○富山委員

学び方の工夫の観点でみると、東京書籍のフォントが濃く、とても見やすいです。特にデジタルコンテンツが秀逸でした。最近、若い人は朗読音声で本を耳から聞いていることが多いと聞きました。実際そういうデジタルコンテンツがあると、本を読みにくい人たちにとってもいい素材として提供できているのではないかと思います。

日本文教出版では、表紙1つにしても、子どもの表情が読み取れるようにすごく上手い自然の写真の写真を載せておられます。そういう意味で、すんなりと道徳ではなく生きる力というタイトルで入ってくるのがいいと思いますし、何より本冊と別冊と分けているので、勉強するにもいいと思いました。

著者数ですが、東京書籍は110名、教育出版は38名、光村図書は31名、日

本文教出版は60名、光文書院は52名、学研は38名でした。

○濱崎教育長

ありがとうございます。学び方の工夫について、お二人にお話しいただきました。

私の方からも学び方の工夫の観点で、東京書籍は、低学年中心に感じることを目的として、雄大な写真を大胆に使っておられます。特に「にじだ にじがでた」は、すごく大きな写真を見せられて、感じることを目的にして「どんな気持ちになりますか」という問いかけになっています。「美しいものや不思議なものを見たり聞いたりしたことがありますか」という問いかけも面白い問いかけだと思います。まずは感じるということによってビジュアル教材を並べられています。

次に、目次の次のページでは「何を学ぶかな?」、中央の大きな円に、「自分のこと」「人とのかかわり」「社会とのかかわり」「命自然美しいもの」の4つの視点で色分けし、キャラクター、イラストを入れ、教材的にも分類して見やすいです。

光村図書では、道徳の学びに欠かせない対話の楽しみ方、考え方のヒントを上手く示しています。教材と向き合ったとき、思わず生まれる「問い」をすごく大切に教材との対話が行なわれています。例えば3年「あいさつ名人」は、自分との対話・友達との対話の3つの対話が分かりやすく示されています。「みんなできもちよくはなしあうためのこつ」も掲載されていて、話しあいのコツが明示され、子ども達がイメージをもちながら対話に向かっていけるよう工夫されています。他にございますか。

○足立委員

同じく学び方の工夫については、富山委員、原委員も日本文教出版の「道徳ノート」にふれられていましたが、先生にとって教材を用意する労力の軽減につながるよい教材と思えました。道徳ノート裏表紙に掲載のある通り、先生や保護者にとっても子どもたちの成長が確認できる記録ノートとして、家庭と学校との連携を図ることができるツールとなることも期待できると思います。同様に、光村図書には、全学年の巻末に「学びの記録」という付録があり、振り返りができるようになっているのもいいなと思えました。

○濱崎教育長

ありがとうございます。他にございますか。

○足立委員

引き続き補足的な学習・発展的な学習についてですが、日本文教出版6年P40、41「心のベンチ」では、学んだことについてより深く考えられるように、題材に関連した内容が例として掲載されています。これにより学んだことを深く心にとどめたり、考えたりすることができるように配慮されていると感じました。

東京書籍6年P24「つながる・ひろがる」では、他教科との関連や日常生活とのつながりについて考える場面があることで、学んだことをさらに深めていくことができるように配慮がされていると感じました。

○濱崎教育長

ありがとうございます。

発達段階の考慮という観点で、先程からキーワードがあつて、「考え議論する道徳」をどう展開していくのかで、やはりポイントは「考え、話したくなるような教材」がそこにあるのかということと言うと、例えば、日本文教出版6年「わたしのせいじゃない」では、印象的なイラストがあり、子ども達の心のなかに「わたしたちのせいじゃない」という言い訳を代弁しています。また、6年「消えた本」では、マンガで構成され、それぞれ題材に親しみやすくなる工夫と配慮がなされています。

また、光文書院では、子ども達にとって親しみやすいマンガで、例えば3年「ラーメンで笑顔に・安藤百福」を羽賀翔一さんの作品として表しています。今まで文章で長く読みつがれていきた「あめのバス停留所で」も羽賀翔一さんが逆にマンガ化していて、名作を身近に感じられるように工夫されています。他にございますか。

○原委員

人権の取扱いについて、こちらでもマンガの話にふれますが、日本文教出版5年P6から9では、「のび太に学ぼう」という「ドラえもん」に出てくる「のび太」という多くの人知っているマンガの主人公を取り上げていて、それだけでどのような人物か想像しやすくなっています。そのイメージが先行しますが、逆の見方、例えばプラスイメージ、やさしさ等を学ぶことにより、友達のいろんな面を発見していくよい題材だと思いました。また、6年生では、コロナウイルスが流行したとき、その中の医療現場で働く側の内容を取り扱っており、記憶に新しい出来事について学ぶことにより、理解も深めやすいと思いました。また、SNSの使いかたや、情報モラルといった現代的な問題についても、いじめと法律などと関連づけることで、今の小学生がしっかりとおさえておきたい部分がわかりやすく載せられています。例示や分かりやすいイラストなどで先生方も指導もしやすいと思いました。

○濱崎教育長

ありがとうございます。他にございますか。

○富山委員

人権の取扱いの観点で、社会生活を送る中で、人間関係の構築は重要です。守らなければならない法律やきまりを子ども達に理解させ、人権尊重について考えさせる必要があります。東京書籍は、そのような考えさせるツール、裏表紙の心情円シートなどの工夫が充実しています。あと、偉人伝がどれだけ載っているのかを6年生の教科書でみてみました。

東京書籍は、アフガニスタンで用水路をつくって、砂漠を緑にしようとして、2019年に撃たれて亡くなった中村哲医師が載っていました。

日本文教出版は、6000人のユダヤ人の命を救った杉原千畝外交官が書かれています。75年経って20万人を超える子孫ができています。素晴らしい日本人ですね。杉原千畝外交官のお話は光文書院P156にも書かれています。

学研と光村図書は、マザーテレサの事について書かれています。光村図書は、「サバクトビバッタ」に関する研究者についても書かれています。

教育出版は、ノーベル賞を受賞された山中伸弥先生や先程の杉原千畝外交官、野口英世先生も書かれています。

何より偉人の見本やどういう環境があって成し遂げたかということを端的に子どもたちに伝えるということで、より良い方向へ導けるのではないかと思います。

○濱崎教育長

ありがとうございます。

私から、組織・配列に関して、最近の傾向として、いじめの問題が深刻化しているということも含めて、仲間づくりが下手になってきている環境も含めて、どの教科書会社もいじめについてはしっかりと取り扱っているなどと思います。特に東京書籍では、いじめを直接扱う教材と、間接的に扱う教材、それを支えるコラムを間に組み合わせた「ユニット」のような構成をして、よくまとまっているなどと思います。例えば「いじめについて、考えよう」「いっしょになってわらっちゃだめだ」では、いじめを直接的に扱い、様々な表情の子どものイラストからいじめへの問題意識を創造させ、すなわち「傍観者」について考えさせる構成になっています。そのあとのコラム「つながる広がる」で、二つの絵の表情や空気感を読み取り、いじめの4層構造「加害者」「被害者」「観衆」「傍観者」を踏まえて、考えさせています。そのあと「となりのせき」では、いじめを間接的に考えるもので、「いじめをしないさせない心」を育もうとするものになっており、よくまとめられていると思いました。

他に意見はないでしょうか。では、採決をとります。みなさんが推薦される教科書に挙手をお願いします。

東京書籍 1 人、教育出版 0 人、光村図書 0 人、
日本文教出版 3 人、光文書院 0 人、学研 0 人

○濱崎教育長

日本文教出版が 3 名、東京書籍が 1 名挙手されていますので、採決の結果、道徳は、日本文教出版を採択いたします。よろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○濱崎教育長

それでは、日本文教出版を採択いたします。

以上をもちまして、「令和 6 年度使用小学校教科用図書」の採択を終わらせていただきます。

続きまして、「令和 6 年度使用中学校教科用図書の採択を行います。

令和 5 年 3 月 31 日付の文科省通知「令和 6 年度使用教科書の採択事務処理について（通知）」に、「中学校用教科書の採択について令和 4 年度に採択したものと同一の教科書を採択しなければならないこと。」と示されています。ただし、本市では、教科書採択に係る事案を受け、数学科、保健体育科の採択替えを行い、令和 5 年度より、数学科は啓林館、保健体育科は東京書籍を使用しています。現在採択している教科書と異なる教科書を採択する場合として、同通知にて、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法第 14 条及び義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第 15 条の規定に基づき、義務教育諸学校の教科用図書の無

償措置に関する法律施行規則第6条各号に掲げる場合は、異なる教科書を採択することができること。」と示されておりますが、今回は該当がないということで、中学校教科用図書に関しましては、継続して、現在使用している教科書を採択することで、ご異議ありませんでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○濱崎教育長

審議の結果、中学校教科用図書については、継続して今年度と同じ教科書を採択することに決定します。

長時間にわたるご審議ありがとうございました。令和6年度使用学校教科用図書の採択につきましては、本市教育委員会事務局、府教育委員会、各学校等の積極的な協力のもと、また市民からも幅広い意見が届けられ、本日、採択の最終日を迎えることができました。

学習指導要領の趣旨に則るとともに、本市の重点教育課題の一つでもあります「主体的・対話的で深い学びの実現」を進めていくことを念頭に置いて、教科書の採択を行い、本日無事終えることができました。

来年4月から、本日採択した教科書を用いて、本市の子どもたちがしっかり学習に励み、「生きる力」を育てていくことを期待いたします。これをもちまして、議案第28号 令和6年度使用教科用図書の採択について終了といたします。

ありがとうございました。

○濱崎教育長

引き続き、日程第3 議案第29号 藤井寺市教育委員会教育長辞職の同意について、議題といたします。

なお、この議案は、人事に関する案件となりますので藤井寺市教育委員会会議規則第4条第2項の規定により「非公開」とさせていただきたいと思っております。

会議を非公開とすることについて、挙手により採決します。非公開とすることに賛成の委員の挙手を求めます。

○委員

「全員挙手」

○濱崎教育長

ありがとうございます。

出席委員の全員の一致により、本件については非公開とすることに決定しました。それでは、暫時休憩とします。

～休憩～

～再開～

○濱崎教育長

誠に申し訳ございませんが、私の任期は令和5年9月21日までなのですが、このたび、都合によりまして令和5年8月31日付で教育長の職を辞したい旨市長へお話しし、辞職願を提出いたしました。この件につきましてよろしくご審議いただきますようお願いいたします。

なお、地教行法第14条第6項の規定に基づき、私自身は議事に加わることは出来ませんので、議事進行を足立職務代理にお願いしたいと思います。それでは足立職務代理をお願いします。私は退席いたします。

○足立職務代理

はい、それでは、教育総務課長、説明願います。

○中村教育総務課長

それでは、議案第29号「藤井寺市教育委員会教育長辞職の同意について」説明させていただきます。

本案は、濱崎教育長から令和5年8月3日付で、令和5年8月31日をもって教育長の職を辞したいと、市長に「辞職願」が提出されましたので、地方教育行政の組織および運営に関する法律第10条の規定により、教育委員会の同意を得る必要があるため、審議をお願いするものであります。

濱崎教育長から提出に至った経緯等をお伺いする中で、市長が「辞職願」を受理、8月7日に同意されたところでございます。

よろしくご審議の上、同意についてご決定賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○足立職務代理

説明は以上のとおりです。ただいまの説明に対して、何かご質問はありますか。

○足立職務代理

よろしいですか。それでは、議案第29号 藤井寺市教育委員会教育長辞職の同意について、決定してよろしいですか。挙手をお願いします。

○委員

「全員挙手」

○足立職務代理

それでは、議案第29号について、決定します。

それでは、この結果を「濱崎教育長」および市長に通知することといたします。議案審議が終了しましたので、「濱崎教育長」の入室を求めます。

「濱崎教育長」が着席。

○足立職務代理

議案第29号「藤井寺市教育委員会教育長辞職の同意について」は、本日付で同

意することを決定いたしましたので、「濱崎教育長」にお知らせいたします。
それでは議事を濱崎教育長へお返しします。

○濱崎教育長

以上で、本日予定しておりました案件は終了いたしましたが、全体を通じて何かご発言がありますか。

以上を持ちまして、8月の臨時教育委員会議を終了します。

本日はありがとうございました。

会議事項が終了したので、閉会を宣する。

午後4時10分